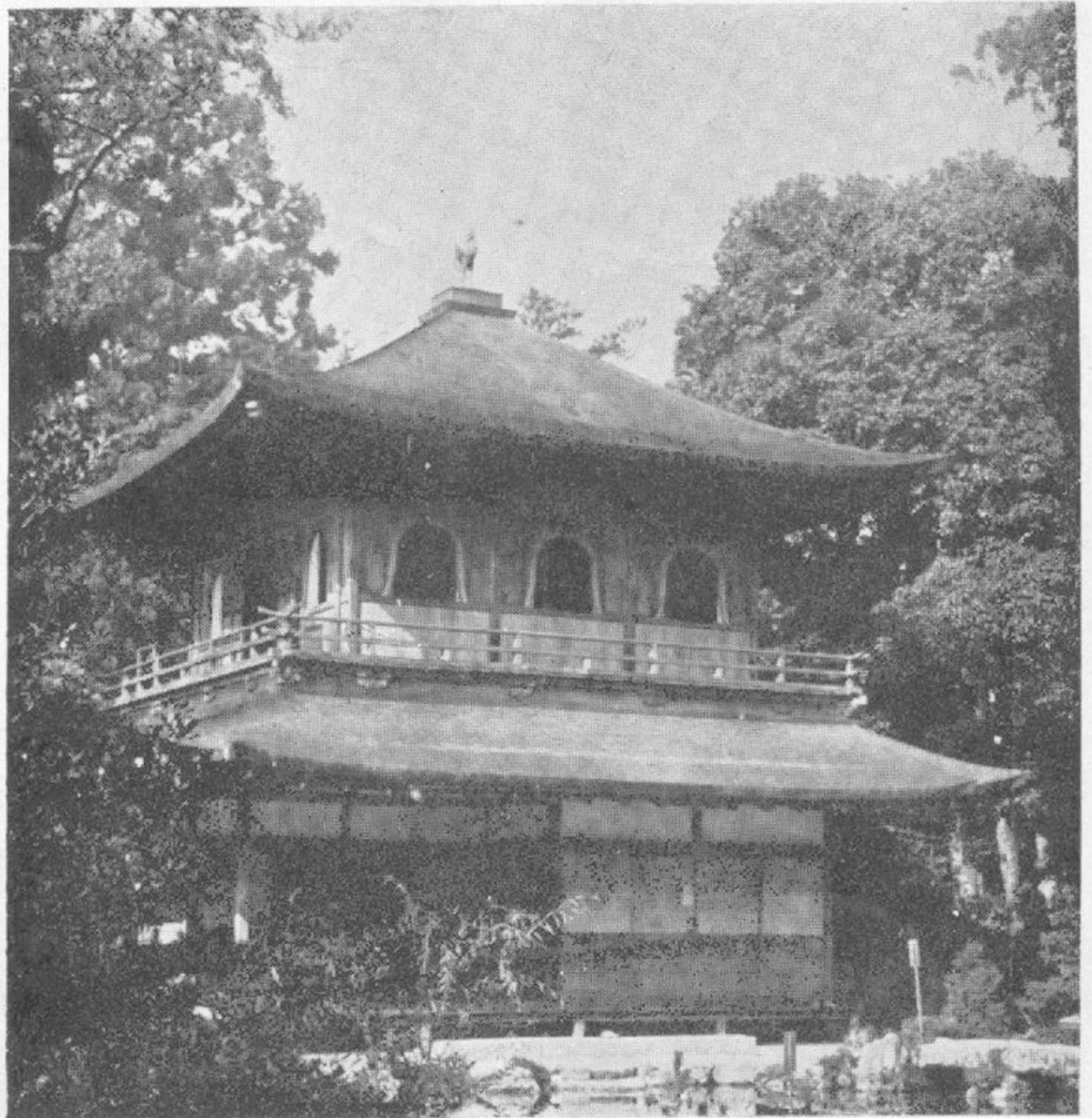
# LA REVUO ORIENTA

1937
JARO XVIII
N-RO 9
SEPTEMBRO

Ginkaku-ĵi, KIOTO, konstruita en Muromaĉi-epoko.



JAPANA ESPERANTO-INSTITUTO

# LA REVUO ORIENTA 目次（Enhavo）

JARO XVIII, N-RO 9


卷頭言 …… 323

通信事業に於ける Esp. の進歩 …… 伊藤巳酉三 325

日本エスペラント大會實業分科會設立趣意書 …… 實業分科會準備會 326

動詞 FARI の用法 …… 小坂狷二 328

"Ekzercaro" 中の句讀點の用法 …… 岡本好次 331

Pri la "Originala Verkaro" …… W. Bailey 343

Pri Ĉina Litero kiel Monda Litero …… 野村佐一郎 346

"MEJ-FA-ZU" …… 大谷正一 348

Japanaj Epigramoj …… 中村田鶴雄 350

失はれた大地（劇） …… 田畑喜作 351

日本エスペラント大會實業分科會（第一回準備會報告） …… 353

各地報道 …… 354

第七回世界教育者會議とエスペラント …… 357

LA REVUO ORIENTA

Jaro XVIII N-ro 9

Septembro 1937

# 世界教育會議と言語の問題

外國から千名餘の參加者があり、日本から二千名の敎育者が列席すると云はれた、世界敎育會議が、言語の問題を如何に處理し、參加者がどんな感想をもつであらうか？といふ問題は、私達エスペランチストは勿論のこと、一般の敎育者の間にも程度の差こそあれ關心が呼び起されてゐたに違ひない。

會議が實際、37ケ國を代表する 900 人の國外參加者と 2000 人の我が國敎育者を集め得たことは、まづ今迄にない大國際會議であるといふ點に於いて大きな成功と言ふことが出來る。日本事務局のそれ迄の努力は絕大のものがあつた。國際會議になれてゐない日本の人々が、これ迄の準備を整へたことに就いては文化運動の一翼にたづさわつてゐる私達エスペランチストも稱賛をおしんではならないと思ふ。會議近くなつては、日本の事務局は130餘名の大世帶になりその他、知名の士と連絡をとり、數百人の學生を別に依囑して、接待にあてる等、そのなされた努力に對しては私達は充分の感謝をしなければならぬ。

さて、會議に於ける言語の問題は？ 900名の外國代表の中大多數を占める國人は、

| | | | |
|---|---|---|---|
| 北米合衆國 | 467 | カナダ | 93 |
| 印度 | 68 | ハワイ | 66 |
| フキリツピン | 47 | 英國 | 30 |

で、85％は英語を語り得る人々である。從つて會議の用語が英語を第一とするのは旣に自明のことであるかのやうに出席の人々は考へてゐた。その他は、アフガニスタン 1, アルゼンチン 1, オーストリー 2, ベルマダ 2, セイロン 7, コロンビア 1, キユーバ 1, デンマーク 1, ドミニシア共和國 1, エヂプト 1, 佛國 2, 獨逸 8, ガテマラ 1, 香港 4, ハンガリー 2, ルクセンブルグ 1, 滿洲國 20, 和蘭 4, ノールウエー 2, ペルシア 1, ルーマニア 1, シヤム 7, スイス 1, トルコ 1, ヴエネズエラ 1, ユーゴースラビア 3, 太洋洲 1, イタリー 5, ニユージーランド 1, ポーランド 6, ポートリコ 1, であつて、自分の國語を主張するやうな國は、獨逸の 8 人と、佛國の 2 人位なものであつた。

ところが國內から參加した日本敎育者は2000に到し、このうち大部分を占めてゐる小學校、中學校の諸先生は英語で、會議をやるのに充分なだけ熟練してをるとは考へられなかつた。

8月2日から會議が開始された。20の部會が全部每日開かれるのではなく、6日間に亘つて2-3回開かれる。第1日目の部會では司會、講演、質問、悉くが英語で行はれた。第一の總會で3000名の各代表の集つたところでの司會は日本人であつたが、英語をもつてなされ、祝辭、挨拶等日本語でなされたものは英譯された。

部會が英語だけで行はれるので日本の代表側から苦情が出て、ある部會では――初等敎育、中等敎育、其他半數以上――通譯をつけることになつた。各部會で、豫め用意されてをる日本

人側の講演（大部分英語）は英文の印刷物が出來てをり、別に「日本側發表論文要旨」といふ 240 頁程の日本譯要旨の印刷物が配布されてゐた。

議長は大多數米英人で、司會は英語で行はれた。日本人で司會をやつた場合を見たが（理科敎育）これも英語を用ひた。日本代表で英語の聽取力のない大部分は、通譯のある部會では通譯の說明を待ち、日本語要旨のある講演は、その印刷物を見て理解するといふ方法以外になかつた。

そんな譯で、英語の理解力のない大部分の敎員代表は、甚だ意氣が揚らないのは當然であつた。質問討議、でも英語でなされる。日本人側で質問、討論に參加する人々は皆英語で話す狀態であつた。通譯のつく部會では大體の經過を理解することが出來るが、通譯のない部會では全く何のことやら、一時聾になつた樣だ。

更に困難な事柄はドイツの代表が自國語で講演をした場合であつた。中等敎育の部會でドイツ代表が「ドイツの中等敎育の現狀」を語つた。これは英譯の謄寫版刷が配布された。しかし、全然知らない言語でしやべられてゐる演說を、他の國語で同時に讀んで行くこと位、興味のないことはないであらう。この場合、一般の日本代表は全く放任されて了つた。更に第二總會で、安田講堂に集つた 2300 人位の代表は、シュルツ氏のドイツ語演說に惱された。外國の代表には英語譯が配布されたが、日本人は、どうせ英語さへも理解困難なのであるから、ましてドイツ語に耳をかたむけても仕方のないといつた態であつた。

かうして言語の困難さの中で、羽仁もと子女史は部會で「敎育上に於ける自由と統一と權威と」を日本語で發表した。しかし女史は令孃を演壇に伴つて、英語に通譯させた。「通譯こちら持ち」である。農業敎育部で佐藤博士が英語で發表されたものゝ要點を日本語で話した。學校衞生で野津謙博士が日本語を用ひた。小原國芳氏の如きは「日本で開かれた會であるのに我々に日本語が聞かれないのは實に殘念である」と云つた時には、日本側では思はず正直な拍手が起つた。同氏は英語と日本語のチャンポンで演說した。

外國側の發表は通譯のある部會ではまあよいとして、それを欠いた部會及び總會では全く大部分の出席者に理解されなかつた。何故なら講演要旨の英語版も日本語版もなかつたからである。（しかしこれは準備がなかつたのではなく、檢閱のために、開會前に配ることが出來なかつたのであつた。）

全會議の會長であり、コロンビア大學（ニューヨーク）の國際學部の部長である有名な敎育學者モンロー博士が、ハーマン、ジョルダン部會で話した一節は重要なことである。卽ち「かゝる國際會議に於いて、國際補助語の問題を論議することは必要なことである」と。

私達は今回の世界敎育者會議が日本で開催されたことを喜ぶ。そしてこの會議が失敗であつたとは決して考へられない。多くの收獲を、出席した外國代表にも、日本の代表にも與へたことを信ずる。それにも拘らず改革しなければならないことは、矢張明らかにしてをかねばならない。會議の言語の困難は今度のやうな場合には、通譯の整備によつて大いに救ふことが出來るであらう。そしてそれは誰でもが考へることである。20 の部會に 20 人英語と日本語の兩方に達者な人をつければよい。內容が非常に一般的なことであつたのだから。しかし、アングロ・サクソン系の國民及びその殖民地以外の國々の代表が澤山來たとしたらどうなるであらう。旣に今回ドイツの代表の演說でその苦い經驗をなめた。この他フランス人が、イタリー人が、スペイン人が多數參加したら、それこそその困難は想像以上である。通譯に要する費用（人的要素ばかりでなく、印刷物も含めて）は勿論のことであるが、通譯のために費される時間、そし

てその餘計な時間のために雰圍氣のこわされることなどを考へると、この言語の困難は相當重大なことである。

しかしながら更にこゝに重大な損失がある。それは、會議の最初にモンロー博士が全會員に希望した「出席各代表が個人的に知り合ひになることが望ましい」といつてたことに對しての障害である。英語をしやべることの出來ない日本の敎員代表、日本語を理解しない外國代表が、如何にして親しく意見の交換が出來るであらうか。如何にして友人になることが出來るであらうか。第三人者を通譯につれて來て聞かうと思ふことを質ねることも出來る。しかしながら、その場合には、話がつぎつぎに發展して本當に友情を結ぶといふやうなことは困難である。これが英語だけでなく獨、佛、伊、和を混じたら困難は倍加するこの大きな障害は氣がつかないが、默々と巨大な姿をもつて橫はつてゐるのである。

今囘の會議の言語に關する全體の事實は、國際補助語へと道が通じてをるやうである。

——Aŭgusto 7, 37. S. K.——

# 通信事業に於ける Esp. の進步

## ——各國政府當局者の好意——

Kiuzo ITO

郵便、電信、電話は最も國際語を必要とする部門の一であるが、この方面に於ける Esp. の進出は 1911 年 Internacia Ligo de Esperantistaj Poŝt- kaj Telegraf-oficistoj (ILEPTO) が設立されて活潑な運動が續けられ、1925年には萬國郵便聯合會議に於て平語として、電信用語に採用されたのを始めとして、1925, 6年には露國政府によつて記念切手が發行され、其後オーストリヤ、ハンガリー、リヒテンシユタインでは Esp. 文入葉書を發行した。其他の各國でも Esp. 文の觀光案内は多數に發行してゐるが、多くは單に Esp. を利用してゐるに止まり、積極的に支持するには至らなかつた。

所が最近 Esp. の普及を助長する傾向が現れ(自國の宣傳の意味も含まれてゐるであらうが)、昨年 Wien の萬國大會に對するオーストリー政府の後援、ブラジル大會に對するブラジル政府の支持等注目すべきものがあり、一時 Esp. 運動を全く禁止したドイツ政府も漸次その態度を緩和せざるを得ない情勢となつた。殊にブラジル、オランダ政府は非常な關心を來し、ブラジルでは昨年第8囘國際見本市及 Esp. 大會には特に記念切手を發行したが、今囘は更に同國交通大臣 J. Marques dos Reis 博士は「國際語の 50 週年記念の如きは歷史上の事實として殘るべきだ」として Esp. 50 週年記念切手を發行することを命じた。

次にオランダ及チエコスロバキアではEsp. 文入葉書が發行された。オランダ郵便當局は以前から Esp. に非常な好意を寄せ、昨年 9 月遞信局長 H. M. Damme 氏は Hilversum 放送局から「郵信、電信、電話と Esp.」の題の下に講演を放送した。同氏は先づ Esp. の必要と國際通信に齎す利益を强調し、數年前より Cseh-Instituto の夏期講習に參加する從業員には休暇が與へられてゐること、Esp.大會に出席する者には可及的許可が與へられること、窓口に勤務する Esp-isto の局員には Oni parolas Esperanton と書いた揭示板が與へられること、配達夫は制服に綠星章を佩用し得ること、今囘新たに國際返信切手を印刷する時は Esp. 文を入れるべく計畫中であること等を述べて大いに Esp. の宣傳をなしたのである。又今夏 Vogelenzang で開かれた國際少年團大會に出張する郵便局には Esp-isto の局員が派遣された。今囘發行

された葉書は外國用繪葉書で、24 枚から成り、從來諸國で發行されたものとは異り、繪は全面を占め、宛名面の一部に蘭語と並行して Esp. 文で説明が付されてゐる。チエコスロバキアの方は2種で、宛名面の半分に Brno 及 Lázne Belohrad 兩市の一部と Esp. 文の説明が印刷されたもので、Lázne Belohrad の分は先年命令された Aleo de D-ro L. L. Zamenhof が載せられてある。

以上の事實は吾々の最後の勝利には未だ遠いものではあるが、Esp. の價値が次第に公式に認められるに至る機運を證明し、來るべき fina venko に對する礎石の一として貴重なものと言はなければならない。唯遺憾なのは之等好意的政府は何れも小國であつて、英米の樣に大國では相變らず無關心の樣である。併し之等の國と雖も何時までもその態度を續け得ないであらう。昨年報ぜられた通り豪洲の上院議員 Abbott 氏の計劃(世界中の各國小學校にて國際語を敎授する事に就き各國政府間に協定を成立せしめる事を國際聯盟に提議するもので、濠洲上院にて採擇された)が實現するとすれば、選ばれるべき國際語は凡ゆる點から Esp. 以外にあり得ないことは吾々の確く信ずる所であつて、斯くして Esp. の發展は最後の段階に入るわけである。然しこの計劃の成否は別として吾々は現在の所、凡ゆる部門に於て將來の飛躍に備へて充分な土臺を礎上げる事に努力しなければならない。

尙 senlaca apostolo として活動を續けてゐる J. R. Scherer 氏は合衆國政府をして Esp. 50 週年記念切手を發行せしめることを企て世界の同志を動員し同政府當局者宛陳情書を提出する樣希望してゐる。この企ては數百或は數千の陳情書が集るならば大いに可能性があるとの事である。有志は擧つて Postmaster General, Washington, USA 或は Third Assistant Postmaster General, Washington, USA 宛希望の旨を申送られ度い。

# 日本エスペラント大會 實業分科會設立趣意書

**實業分科會準備會**

「エスペラント」も發表以來五十年、幾多の苦難を克服して向上の一路を辿り今やその實質的價値については世界有識者の齊しく認めるところとなりました。我々はこの先人の業績を承け盛大なる五十年の黄金祝典を擧ぐるに當り更にこれを發達せしめて人類に有用なる成果を擧げることの義務を一層强く感ずるものであります。

ついては、この「エスペラント」を我々の社會生活の基礎たる實業方面に實用することが最も必要なる事であり而も世人は我々の此の方面の努力を期待してゐます。

近年の日本產業の飛躍的發展は眞に目醒ましいものがあり世界各國の驚異の的となつてゐます。この產業の發展は實に「エスペラント」の實用の必要を到る處に喚起し、此處に「エスペラント」の發展の好望廣大なる領野を開き、且「エスペラント」によつて產業の猶一層發展の便宜を得ることを待つてゐます。顧るに、世界の現下の經濟は幾多の困難なる情勢に當面し、互に市場の確保、資源の開發等に關し複雜なる葛藤を現し、國際友好親善の爲の努力はいよいよ必要を痛感されて來ました此の間に處して、日本は新たなる市場の開發の爲にも、新たなる製品の紹介の爲にも、又國際友誼の增進の爲にも「エスペラント」の必要を益々痛感してゐます。

かくて近く、第十二回オリムピック大會の東京にての開催、及び東京萬國博覽會の開催等は、

この世界事情の下に我國の產業及文化の發展の爲の事業として各方面の注意及努力が集中されてゐます。我々「エスペランチスト」も從來實業的利用の爲に個々の努力は拂つて來ましたがなほ甚だ不十分の譏は免かれません。

今、こゝに「エスペラント」運動五十年の成果を顧み、現下の世界及日本の產業情勢の要求する所を察しますと、此の際我々自覺奮起して、「エスペラント」の實業的利用の爲に努力せざる可からざることを知るのであります。この方面の事業として爲すべきことは極めて多い筈です。それ等を着々と解決して行く爲に、先づ何よりも我が「エスペラント」界內部の實業家諸君及び「エスペラント」の實業的活用に理解と同情を寄せらるゝ諸氏と共に一堂に會して此の問題に關し衆知を集め衆力を結合する基礎を創りたいと思ひます。依つて此の度第二十五回日本「エスペラント」大會の機會に實業分科會を開催し賛成者諸氏の合同を得たいと思ひます。

分科會に於て爲すべき當面の事業と思推さるゝ主なるものは左の如きものです。

一、「エスペラント」界內部の實業家、及「エスペラント」の實業的活用の賛助者の力を糾合する方策如何。

二、「エスペラント」の實業的利用價値につき一般實業界に注意を喚起する方策如何。

三、從來の「エスペランスチト」に「エスペラント」の實用的利用に關する注意の喚起、及び實用的教育の遂行方法如何。

四、我が國實業教育課程に「エスペラント」を導入する方法如何。

五、世界各國の實業「エスペランチスト」の協力實現方策如何。

六、來る可き萬國博、「オリムピツク」に「エスペラント」を利用せしむる方法如何。

七、國際觀光事業に「エスペラント」活用の實現方法。

八、實業「エスペラント」運動促進の爲の諸調查實行の件。

　實業「エスペランチスト」名簿。

　「エスペラント」實業的利用例集。

　「エスペラント」實業用語の研究蒐集。

九、「エスペラント」の實業的利用促進の方策。

一〇、實業「エスペランチスト」の營業の相互援助其他。

本分科會の參加者は

イ、「エスペランチスト」の商、工業、保險、金融、運輸業者等。

ロ、觀光、廣告事業關係者。

ハ、實業教育家。

ニ、產業關係の技術家。

ホ、產業關係官公吏。

ヘ、商業美術家、寫眞、印刷業者。

ト、產業「ジヤーナリスム」實業關係評論通信宣傳事業者。

チ、會計事務、特許事務、法律事務家。

リ、實業關係研究家。

ヌ、其他諸營業者。

ル、實業「エスペラント」運動賛成者。

實業分科會參加希望者申込を乞ふ。

　氏名、住所、職業(勤先)、年齡。

實業分科會議題提出を乞ふ。

一個人の提案も歡迎、一九三七年九月末日迄。

提案者缺席の場合も審議する故詳細なる說明書添附の事。

# 動詞 FARI の用法

## (17)

K. OSSAKA

§ 8 (b). *Daŭrigo.* TRADUKAJ EKZERCOJ III.

*Parafrazu kaj traduku japanan en la sekvantajn ekzemplojn :—*

1. La patro de Marta, parte pro sia propra nesingardeco, sed precipe kaŭze de ekonomia ŝanĝo, kiu *fariĝis* en la lando, enfalis en danĝeron perdi sian posedaĵon. (M 15/4)

2. Tiam *fariĝis* granda revolucio; mia tuta familio dispartiĝis. (FI 129/1)

3. La malgranda brava infano ĉion trankvile elportis, kvazaŭ li komprenus, ke en apudestado de lia patro povus *fariĝi* al li nenio malbona. (FK 110/4)

4. Sed kio do dovis *fariĝis* al ŝi ? (M 61/6)

5. Kaj la patrino stariĝis malproksime, por sciiĝi, kio *fariĝis* kun li. (El 21/-2)

6. La pordkurteno movetiĝis kaj en la fendo, kiu *fariĝis* inter la pezaj faldoj de la punca ŝtofo, aperis paro da karbe nigraj flamaj okuloj. (M 46/10)

7. El la tero disbatita per la piedoj *fariĝis* marĉo. (BV 5/13)

8. Mi rapidas raporti al vi, mia kara Trjapiĉkin, kiaj mirindaĵoj al mi *fariĝas.* (Rz 93/4)

9. Nenia popolo povas scii, kio *fariĝos* kun ĝi morgaŭ. (OV 318/29)

10. Ne, tio neniel devas *fariĝi !* (FI 26/17)

11. Nu, efektive, ju pli mi meditas... la diablo scias, mi ne scias eĉ, kio *fariĝas* en mia kapo. (Rz 51/6)

12. Neniu venis supren, kaj kiam fine iu venis, tio *fariĝis* nur kun la celo stariĝi en la angulo kelke da grandaj kestoj. (FII 46/23)

13. Kaj mi ekmalamis la vivon, abomenindaj estas por mi la faroj, kiuj *fariĝas* sub la suno. (Pr 8/11 ; *ank. vd.* Pr 9/-9 ; *komp.:* Pr 8/-13 : ĉiun laboron, kiun mi laboris sub la suno)

14. Kiaj strangaj aferoj ofte *fariĝas* en la mondo ! (FI 101/7)

15. La skribisto okupadis sin per tiu penso kaj meditadis pri la ŝanĝo, kiu *fariĝis* en li. (FI 88/7)

16. Kaj en la palaco *fariĝis* plej granda ĝojo. (FI 47/21)

17. Ekstere *fariĝis* terura malbonvetero. (FI 33/13 ; *ank. vd.* FI 40/8)

18. *Fariĝis* miraklo. (FII 50/2)

19. La pupo deglitis de la tirkesto rekte sur la plankon, tiel ke *fariĝis* granda bruo. (FI 23/3)

20. Ĉio *fariĝis* kviete, senskue kaj eĉ nerimarkeble. (OV 387/15)

21. Tiam *fariĝias* tia ventego, ke la arbaroj renversiĝas. (FII 71/30)

22. *Fariĝas* plena siletno. (Rt 54/19)

23. Nun el la soldato *fariĝis* eminenta sinjoro. (FI 3/–8)

24. Li alvenis, por vidi, kio *fariĝas*, kaj kiu al la diablo sur lia propra tero faras muzikon antaŭ la manĝo de l' mateno. (BV 9/4)

§8 (c) Sensubjekta (t. n. senpersona) „**FARIĜI.**“ Kelkaj ekzemploj:

Al ili *fariĝis* (=ekestis) enue. (FII 96/11) 退屈になつて來た。

Al Knut subite *fariĝis* (=ekŝajnis esti) tiel, *kvazaŭ* la ĉambro ronde turniĝas kun li. (FIII 61/22) 急にクヌートには部屋が自分諸共まわり出した樣に思はれた。

*Komparu:* Al li *estis* (=ŝajnis esti), *kvazaŭ* li sidu sur pingloj. 針のむしろに座する思ひ。

*Fariĝas* tia malluma nokto antaŭ miaj okuloj... Li forkuras! (Rt 139/13) 眼の前が暗闇になつた樣(あゝ絶望)……彼は逃げてゆく。

Kiam *fariĝis* nokto, ŝi elŝteliĝis el la domo. (FII 14/7; *ank. vd.* FII 23/12) 夜になると彼女は家からこつそり拔け出した。

〔註〕 „Hodiaŭ estas vendredo“ (今日は金曜日です) に於て hodiaŭ は en la hodiaŭa tago の意、卽ち時の補足語 (cirkonstanca komplemento de tempo) であつて、此の文の主語ではない。然し vendredo も主語ではなく補語 (predikato) である。卽ち此の文には主語がない。かゝる用法の esti を無主格動詞 (sensubjekta aŭ senpersona verbo) と云ふ。本例の fariĝi も然り。

Kaj estis printempo kaj *fariĝis* somero, estis aŭtuno kaj *fariĝis* vintro. (FII 81/11) 春となり夏となり、秋となり冬となつた。

Kaj antaŭ ol li denove trovis la ĝustan vojon, *fariĝis* vespero. (FI 8/14) 彼が再び本當の道を見出さぬ內に晚になつた。

〔註〕 此の例の vespero も主語ではなく補語である。

Kaj kiel varmege *fariĝis* al mi sub la haŭto, kiam mi ekaŭdis la teruran kriadon. (Rt 101/1) そのおそろしい叫び聲を聞いた時にはハッとして身がほてつた。

Kiel lume *fariĝis* en mi! (Rt 20/–5) 頭の中が明くなつた(よい考が浮んだ)。

*Fariĝis* nokto kaj *farigis* lumo, silento kaj tondro alternis. (FIII 30/6) 暗くなつたり光つたり、沈默と雷鳴とが相次いだ。

Kaj al ŝi *fariĝis* en la koro ankoraŭ pli agrable kaj hejme meze de tiom da homoj, kiuj estis al ŝl tiel proksime parencaj per komuna deveno, pensmaniero kaj suferoj. (Rn 34/15) 彼女と共通な出生や考へ方や苦樂の點で極めて近親な人々の中に在るので彼女は心の中が氣持よく氣安くなつた。

---

〔Tradukaj Ekzercoj III 解〕

1. マルタの父親は自身の不用心のせいもあつたが、殊に國內に起つた (fariĝis=ekokazis,

ekregis) 經濟界の變動がもとで財產を失ふ危險に瀕した。

2. 其時大革命が起り（=ekokazis, komenciĝis）私の全家族は離散しました。

3. この勇敢な少さい子供はおとなしく我慢し通したのです、それは父親がそばに居てくれゝば悪い事などは身に起る筈がないと心得てゐるかの樣であつた。

4. だけれど一體彼女はどうしたのだろう（何が身に起つたのかしら）。

5. 母親は遠方に立つてゐた、それは彼がどうなるかを知るためであつた。

6. 入口のカーテンがゆらいで紅い布の重々しいひだの間に出來てゐる（=estis farita）切れ目の處に炭の黑様にい燃える樣な眼が二つ現はれたのであつた。

7. 足でふみにじられた地面で沼が出來上つたのである。（=estis farita）

8. トリヤピチキン君、如何に奇々怪々なる事がこの身に起り申し候か取急ぎ御報告申上候。

9. 如何なる國民も明日その身が（運命が）如何になるか知り得ない。

10. いや、そんな事になつてなるものか。

11. ウン、ほんに、考へれば考へる程……こいつは見當がつかん、この頭の中はどうなつたのかしらおれにはわからぬ。〔註〕la diablo scias 悪魔は知つてゐる（だらうが、おれには一向知らん、全くわからん）。

12. 登つて來る者とては無かつたが、とうとう誰かやつて來たと思つたらそれは隅に大きな箱を何個か置くためにやつて來たのに過ぎなかつた。（=tio okazis nur . . .）

13. かくてわれはこの世をば憎むに至つた、此の世（太陽の下）に行はるゝ（=estas farataj）事どもが私にとつていとわしいものになつた。

14. ても不思議な事が世にはあるものだわい（=okazas, estas farataj）

15. 書記は此の考に捕はれてその身に（身内に）起つた變化を考へぬいた。

16. 宮中では非常に大目出度であつた。

17. 屋外はひどい悪天候になつた（=ekestis）。

18. 奇蹟があらはれた。（=ekestis, ekmontriĝis）

19. 人形は箱からそのまゝ床の上へ落ちたので大きな音がした。（=ekokazis）

20. すべては肅然と、ごたごたも起らずに、場合によつては氣も付かぬ内に行はれる。

21. その時非常な大風が起り、そのために森もひつくりかへされて了ふ程である。

22. シーンと靜まりかへる。

23. 今や兵卒から大官になつたのだ。（=estis farita）

24. 何事が起つたのか、又一體全體誰が自分の邸內で朝食前に音樂などをやつてゐるのか、見にやつて來たのであつた。

---

# "Ekzercaro" 中の句讀點の用法

## (Interpunkcio en "Ekzercaro")

( 2 ) Joŝicugu OKAMOTO

(b) **aŭ**

(イ) 完全な二文を接續する場合 aŭ の前へ , をおく。(問題にしてゐる aŭ を示すためそれのみを斜體字で示した。以下すべて之に傚ふ)。

但し Ekzercaro に於いてこの例は僅かに次の二例にすぎない。

Glaso de vino estas glaso, en kiu antaŭe sin trovis vino, *aŭ* kiun oni uzas por vino; ... (§32)

Metro de drapo signifus metron, kiu kuŝis sur drapo, *aŭ* kiu estas uzata por drapo.

なほ次の用例は aŭ の前に ; がおかれてゐるから , をおく必要のないことは云ふ迄もないことである。

...(aŭ li estos dirinta al mi la veron; *aŭ* antaŭ ol vi venos al mi, li diros al mi la veron). (§24)

(ロ) aŭ が單に語又は句を接續する場合 (次の 18 例) 及び兩文の主語又は述語が共通なためその一が略されてゐる場合 (次の 2 例) には aŭ の前には , をおかない。

Unu tago estas tricent-sesdek-kvinono *aŭ* tricent-sesdek-sesono de jaro. (§14)

Ĉu vi estas surda *aŭ* muta? (§20)

Ĉu hadiaŭ estas varme *aŭ* malvarme? (§25)

La artikolo „la" estas uzata tiam, kiam ni parolas pri personoj *aŭ* objektoj konataj. (§27)

La personoj, kiuj ne komprenas la uzadon de la artikolo (ekzemple rusoj *aŭ* poloj, kiuj ne scias...) povas... (§27)

...sed, se la bonsoneco *aŭ* la klareco postulas, oni povas... (§27)

Ekzemploj: skribtablo *aŭ* skribotablo. (§27)

...montri, ke la birdo sin ne trovis antaŭe en la ĝardeno *aŭ* sur la tablo... (§28)

Mi ridas je lia naiveco (aŭ mi ridas pro lia naiveco, *aŭ*: mi ridas lian naivecon). (§29)

Se ni aldonas..., ni ricevas vortojn demandajn *aŭ* rilatajn: kia, kial... (§30)

...ekzemple: tiu...tie (malproksime), tie ĉi *aŭ* ĉi tie (proksime). (§30)

Ĉu li donis al vi jesan respondon *aŭ* nean? (§31)

...Nikolĉjo (aŭ Nikoĉjo *aŭ* Nikĉjo *aŭ* Niĉjo)...

Vilhelĉjo (aŭ Vilheĉjo *aŭ* Vilĉjo *aŭ* Viĉjo),... (§38)

...skatolo *aŭ* alia objekto, en kiu oni tenas cigarojn, estas cigarujo; ... (§40)

Magazeno, en kiu oni vendas cigarojn, *aŭ* ĉambro, en kiu oni tenas cigarojn, estas cigarejo; ... (§40).

〔注意：この例は aŭ の前に，があるから例外の如く見えるが之は en kiu oni vendas cigarojn といふ文の切れ目を示すため aŭ の前に，がきたのであつて aŭ があるためにおいた，ではない〕。

..., en tiaj okazoj ni uzus la finaĵon „n" tute egale ĉu ia prepozicio starus *aŭ* ne. (§28)

...ĉu ĝi postulos post si la akuzativon (...) *aŭ* ne, ni povas ĉiam uzi la akuzativon. (§29)

猶 aŭ が二個つゞけて用ひられてやはり語句を接續してゐる次の二文に於ても aŭ の前に，がおかれてゐない。

...ĉe ĉiu vorto, kiun vi diros, el via buŝo eliros *aŭ* floro *aŭ* multekosta ŝtono. (§15)

...ĉe ĉiu vorto, kiun vi parolos, eliros el via buŝo *aŭ* serpento *aŭ* rano. (§19)

猶 Ekzercaro にある次の 24 個の aŭ の用例は遺憾ながら aŭ の前に括弧があるため，の有無を研究する材料とならない。これは簡單に用例の數のみをのべ一々用例をあげない。(二三例を參考にあげる)

§14 に次の 3 例。

Mi aĉetis dekduon (*aŭ* dek-duon) da...

Mil jaroj (*aŭ* milo da jaroj) faras jarmilon.

...kostas kvar kaj duonon frankojn (*aŭ* da frankoj).

§16 に 1 例。 §24 に 5 例。 §25 に 1 例。 §28 に 2 例。

§29 に 3 例〔注意：この中二は aŭ の次に：がおかれてゐて一寸注目に値する〕。

§30 及 §32 に各 1 例。 §38 に 6 例。 §39 に 1 例。(合計 24 例)。

(c) sed

(イ) sed は kaj や aŭ とちがひすべての場合 sed の前に，を伴つてゐる。これは kaj は文や語句を意味の上で結合するが sed はむしろ前の文や語句の意味を打消す力が強いからであらう。

La patro ne legas libron, *sed* li skribas leteron. (§9)

La papero estas tre blanka, *sed* la neĝo estas pli blanka. (§10)

Mi havas nur unu buŝon, *sed* mi havas du orelojn. (§12)

Por ĉiu tago mi ricevis kvin frankojn, *sed* por la hodiaŭa tago mi ricevis duoblan pagon... (§14)

Kvinope ili sin ĵetis sur min, *sed* mi venkis ĉiujn kvin atakantojn. (§14)

Li amas min, *sed* mi lin ne amas. (§18)

Mi volis lin bati, *sed* li forkuris de mi. (§18)

...mi serĉos mian horloĝon, *sed* mi timas, ke mi ĝin jam ne trovos. (§20)

...oni prenas ordinare la purajn radikojn, *sed,* se la bonsoneco aŭ la klareco postulas, oni povas ankaŭ preni la tutan vorton... (§27)

...staras tie ĉi en akuzativo ne ĉar la prepozicioj „en" kaj „sur" tion ĉi postulas, *sed* nur ĉar ni volas esprimi direkton, t. e. montri, ke la birdo sin ne trovis antaŭe en la ĝardeno aŭ sur la tablo kaj tie flugis, *sed* ke ĝi de alia loko flugis... (§28)

..., *sed* ni devas diri ĉiam „pardoni al la malamiko lian kulpon". (§ 29).

Diplomatiiston oni povas ankaŭ nomi diplomato, *sed* fizikiston oni ne povas nomi fiziko, ĉar ... (§ 32)

Mia frato ne estas granda, *sed* li ne estas ankaŭ malgranda: li estas de meza kresko. (§ 33)

La fenestro longe estis nefermita; mi ĝin fermis, *sed* mia frato tuj ĝin denove malfermis. (§ 33)

Mi volis ŝlosi la pordon, *sed* mi perdis la ŝlosilon. (§ 34)

Mi ne scias la lingvon hispanan, *sed* per helpo de vortaro hispana-germana mi tamen komprenis iom vian leteron (§ 34).

La riĉeco de tiu ĉi homo estas granda, *sed* lia malsaĝeco estas ankoraŭ pli granda. (§ 35)

Mia onklo ne mortis per natura morto, *sed* li tamen ne mortigis sin mem... (§ 39)

Lia hieraŭa parolo estis tre bela, *sed* la 'tro multa parolado lacigas lin. (§ 40)

Kiam vi ekparolis, ni atendis aŭdi ion novan, *sed* baldaŭ ni vidis, ke ni trompiĝis. (§ 40)

Ŝtalo estas fleksebla, *sed* fero ne estas fleksebla. (§ 41)

Lia edzino estas tre laborema kaj ŝparema, *sed* ŝi estas ankaŭ tre babilema kaj kriema. (§ 41)

Li donis al mi monon, *sed* mi ĝin tuj redonis al li. (§ 42)

Mi foriras, *sed* atendu min, ĉar mi baldaŭ revenos. (§ 42)

以上 25 例は文と文とを接續する場合の sed の用例である。次の 10 例は語又は句を接續する場合の用例である。

La filino iris, *sed* ĉiam murmurante. (§ 19)

Anstataŭ kafo li donis al mi teon kun sukero, *sed* sen kremo. (§ 26)

...la akuzativo tie dependas ne de la prepozicio, *sed* de aliaj kaŭzoj. (§ 28)

...la ĝardeno kaj tablo ne estis la loko de la flugado, *sed* nur la celo de la flugado... (§ 28)

Ni faris la kontrakton ne skribe, *sed* parole. (§ 31)

Lernolibron oni devas ne tralegi, *sed* tralerni. (§ 31)

Nia provincestro estas severa, *sed* justa. (§ 37)

Nia urbo havas bonajn policanojn, *sed* ne sufiĉe energian policestron. (§ 37)

En nia lando sin ne trovas montoj, *sed* nur montetoj. (§ 38)

Tio ĉi estis jam ne simpla pluvo, *sed* pluvego. (§ 38)

猶次の例は sed の前に ,よりも強い ; が來てゐるので ,をおく必要のないもの。又 ; でなく括弧のあるもの及び Sed が文首にあるもの。これらは何れも sed の前の ,用法を論ずる材料として役立たぬもの。

Mi zorgas pri ŝi tiel, kiel mi zorgas pri mi mem; *sed* ŝi mem tute ne zorgas pr si kaj... (§ 18)

Kiam mi venis al li, li dormis; *sed* mi lin vekis. (§20)

*Sed* pri ŝia fratino ni povas diri ke ŝi... (§23)

Laŭ la projekto... tiu ĉi fervojo estas konstruota en la daŭro de du jaroj; *sed* mi pensas, ke... (§25)

Anstataŭ „la“ oni povas ankaŭ diri „l'“ (*sed* nur post prepozicio, kiu finiĝas per vokalo). (§27) (注意：この場合 sed の前に括弧があるので，がないものと考へる)。

*Sed* estas bone uzadi la vorton „je“ kiel eble pli malofte. (§29)

*Sed* ni ne uzas la akuzativon... (§29)

Mi ne pendigis mian ĉapon sur tiu ĉi arbeto; *sed* la vento forblovis de mia kapo la ĉapon, kaj... (§39)

Ni ĉiuj kunvenis, por priparoli tre gravan aferon; *sed* ni ne povis atingi ian rezultaton, kaj ni disiris. (§42).

猶 sed の用例の中で唯一つ次の用例は，を伴つてゐない例外的のものである。

...en la unua tempo tute ne uzi la artikolon, ĉar ĝi estas oportuna *sed* ne necesa. (§27)

但し FK (§16) によればこの場合も sed の前に，をおいてゐる所から考へてこの例外は，を脱漏したものと見られぬこともない。

(ĉ) ĉar

ĉar の前及主從兩文の連接部に (,) をおく。(但し ĉar が文主にあればこの限りでないことは云ふ迄もない)。

次の用例は ĉar が主文の後へ來た場合である。

Donu al la birdoj akvon, *ĉar* ili volas trinki. (§9)

La tranĉilo tranĉas bone, *ĉar* ĝi estas akra. (§16)

La infano ploras, *ĉar* ĝi volas manĝi. (§16)

La infanoj ploras, *ĉar* ili volas manĝi. (§16)

Li estas mia onklo, *ĉar* mia patro estas lia frato. (§18)

“Bone, *ĉar* vi estas tiel servema, mi faras al vi donacon, ke... (§19) (注意：これは bone があるために，をおいたとも見られる。實際は兩方の理由から)。

Ni estu gajaj, ni uzu bone la vivon, *ĉar* la vivo ne estas longa. (§20)

Ne riproĉu vian amikon, *ĉar* vi mem plimulte meritas riproĉon;... (§22)

La hirundo flugis trans la riveron, *ĉar* trans la rivero sin trovis multaj hirundoj. (§26)

La personoj, kiuj..., povas en la unua tempo tute ne uzi la artikolon, *ĉar* ĝi estas oportuna sed ne necesa. (§27)

La montritajn naŭ vortojn ni konsilas bone ellerni, *ĉar* el ili ĉiu povas jam fari grandan serion da aliaj pronomoj kaj adverboj. (§30)

Diplomatiiston oni povas ankaŭ nomi diplomato, sed fizikiston oni ne povas nomi fiziko, *ĉar* fiziko estas la nomo de la scienco mem. (§32)

Nia lando venkos, *ĉar* nia militistaro estas granda kaj brava. (§34)

Mi ne volis trinki la vinon, *ĉar* gi enhavis en si ian suspektan malklaraĵon. (§35)

La hebreoj estas Izraelidoj, *ĉar* ili devenas de Irrado. (§ 36)

Forigu vian fraton, *ĉar* li malhelpas al ni. (§ 39)

Venigu la kuraciston, *ĉar* mi estas malsana. (§ 39)

Rakontu al mi vian malfeliĉon, *ĉar* eble mi povas helpi al vi. (§ 41)

Mi kredeble ne povos veni al vi hodiaŭ, *ĉar* mi pensas, ke mi mem havos hodiaŭ gastojn. (§ 41)

Mi foriras, sed atendu min, *ĉar* mi baldaŭ revenos. (§ 42)

猶 ĉar が文首へ來た用例には次の如きがある。(この際主從兩文の連接部に，がおかれる)。

*Ĉar* ĉiu amas ordinare personon, kiu estas simila al li, tial tiu ĉi patrino varmege amis sian pli maljunan filinon, kaj ... (§ 13)

なほ ĉar を含む從屬文が主文の後にあるが ĉar の前に，をおかない例外的の用例に次の二つの用例がある。尤もこれらに就ては ĉar の前に ne 又は nur がおかれこれらの語が ĉar を修飾してゐる特別な場合であるから上記の場合と些か趣きを異にしてゐる。

Ekzemple: por esprimi direkton, ni aldonas al la vorto la finon „n"; sekve: tie (=en tiu loko), tien (=al tiu loko); tiel same ni ankaŭ diras: „la birdo flugis en la ĝardenon, sur la tablon", kaj la vortoj „ĝardenon", „tablon" staras tie ĉi en akuzativo ne *ĉar* la prepozicioj „en" kaj „sur" tion ĉi postulas, sed nur *ĉar* ni volis esprimi direkton, t. e. montri, ke ... (§ 28)

Ĉar が文首にあるが從屬文が殆んど主文と獨立して存在してゐるが如き次の一例に於ては ĉar の前に (,) がない。尤もその前に (,) の代りに括弧があるとみてもよい。

...(*ĉar* tio ĉi estis feino, kiu prenis sur sin la formon de malriĉa vilaĝa virino, por vidi, kiel granda estos la ĝentileco de tiu ĉi juna knabino). (§ 15)

(d) **ke**

45 例中 2 個の例外を除き他は ke の前に (,) をとる但し猶 1 例は por ke といふ複合した接續詞(とみるべきもの)であるので por の前に (,) をおくので ke の前に (,) なし。

Diru al la patro, *ke* mi estas diligenta. (§ 8)

La pli maljuna estis tiel simila al la patrino per sia karaktero kaj vizaĝo, *ke* ĉiu, kiu ŝin vidis, povis pensi, *ke* li vidas la patrinon; ili ambaŭ estis tiel malagrablaj kaj tiel fieraj, *ke* oni ne povis vivi kun ili. (§ 11)

La sepan tagon de la semajno Dio elektis, *ke* ĝi estu pli sankta, ol la ses unuaj tagoj. (§ 12)

En unu tago, kiam ŝi estis apud tiu fonto, venis al ŝi malriĉa virino, kiu petis ŝin, *ke* ŝi donu al ŝi trinki. (§ 15)

Vi estas tiel bela, tiel bona kaj tiel honesta, *ke* mi devas fari al vi donacon. (§ 15)

"Mi faras al vi donacon, "daŭrigis la feino, "*ke* ĉe ĉiu vorto, kiun vi diros, el via buŝo eliros aŭ floro aŭ multekosta ŝtono." (§ 15)

Oni diras, *ke* la vero ĉiam venkas. (§ 16)

Pardonu al mi, patrino, "diris la malfeliĉa knabino, "*ke* mi restis tiel longe." (§ 17)

Ŝajnas al mi, *ke* el ŝia buŝo elsaltas perloj kaj diamantoj!... (§17)

Tio ĉi estis la unua fojo, *ke* ŝi nomis ŝin sia filino. (§17)

Mia frato diris al Stefano, *ke* li amas lin pli, ol sin mem. (§18)

"Estus tre bele," respondis la filino malĝentile, "*ke* mi iru al la fonto!"

Bone, ĉar vi estas tiel servema, mi faras al vi donacon, *ke* ĉe ĉiu vorto, kiun vi parolas, eliros... (§19)

...mi serĉos mian horloĝon, sed mi timas, *ke* mi ĝin jam ne trovos. (§20)

Se mi scius, *ke* mi estas tie ĉi, li tuj venus al mi. (§20)

Ordonu al li, *ke* li ne babilu. (§20)

Petu ŝin, *ke* ŝi sendu al mi kandelon. (§20)

La filo de la reĝo, kiu revenis de ĉaso, ŝin renkontis; kaj, vidante, *ke* ŝi estas tiel bela, li demandis ŝin, kion... (§21)

La reĝido, kiu vidis, *ke* el ŝia buŝo eliris kelke da perloj kaj kelke da diamantoj, petis ŝin, *ke* ŝi diru al li, de kie tio ĉi venas. (§23)

La reĝido konsideris, *ke* tia kapablo havas pli grandan indon, ol... (§23)

Sed pri ŝia fratino ni povas diri, *ke* ŝi fariĝis tiel malaminda, *ke* ŝia propra patrino ŝin forpelis de si;... (§23)

Mi volas, *ke* tio, kion mi diris, estu vera (aŭ...). (§24)

Mi sciigas, *ke* de nun la ŝuldoj de mia filo ne estos pagataj de mi. (§25)

...sed mi pensas, *ke* ĝi estos konstruata pli ol tri jarojn. (§25)

Li diras, *ke* mi estas atenta. (§26)

Li petas, *ke* mi estu atenta. (§26)

...sed nur ĉar ni volis esprimi direkton, t. e. montri, *ke* la birdo sin ne trovis antaŭe en la ĝardeno aŭ sur la tablo... (§28)

...(ni volas montri, *ke* la ĝardeno kaj tablo ne estis la loko de la flugado, sed...) (§28)

El la dirita regulo sekvas, *ke* se ni pri ia verbo ne scias, ĉu ĝi postulas post si la akuzativon... (§29)

„Da" post ia vorto montras, *ke* tiu ĉi vorto havas signifon de mezuro. (§32)

Li estas tiel dika, *ke* li ne povas trairi tra nia mallarĝa pordo. (§33)

La nokto estis tiel malluma, *ke* ni nenion povis vidi eĉ antaŭ nia nazo. (§33)

Li sentis sin tiel malfeliĉa, *ke* li malbenis la tagon, en kiu li estis naskita. (§33)

Oni tiel malhelpis al mi, *ke* mi malbonigis mian tutan laboron. (§33)

La tranĉilo estis tiel malakra, *ke* mi ne povis tranĉi per ĝi la viandon kaj... (§34)

...sed baldaŭ ni vidis, *ke* ni tromriĝis. (§40)

Ĉu vi amas vian patron? Kia demando! kompreneble, *ke* mi lin amas. (§41)

〔注意：この場合 kompreneble の前に estas が略されてゐるとみるとよいと思ふ。〕

Mi kredeble ne povos..., ĉar mi pensas, *ke* mi mem havas hodiaŭ gastojn. (§41)

例外は（ke の前に，のないもの）次の二例である。但しこの中の一例は ke の前に接續詞

(sed) があつてその sed の前に，がおかれてゐるから ke の前に，がなくてよいと思ふ。

Mi volas *ke* vi tien iru. (§19)

...t. e. montri, ke la birdo sin ne trovas antaŭe en la ĝardeno aŭ sur la tablo kaj tie flugis, sed *ke* ĝi de alia loko flugis al la gardeno... (§28)

次の一例は por ke なる複合接續詞であるため por の前に (,) をおくから ke の前におかぬ。

...kaj alportis al la virino, ĉiam subtenante la kruĉon, *por ke* la virino povu trinki pli oportune. (§15)

(e) se

se の前及び se をふくむ從屬文と文との連接部には (,) をおく。

...tial, *se* mi legos en ĉiu tago po dek kvin paĝoj, mi finos la tutan libron en kvar tagoj. (§14)

"*Se* estas tiel," diris la patrino, mi devas tien sendi mian filinon. (§17) [注意: mi の前に citsigno がおちてゐる].

Mia opinio estas: prenu mem akvon, *se* vi volas trinki. (§19)

*Se* mi estus sana, mi estus feliĉa. (§20)

*Se* li scius, ke mi estas tie ĉi, li tuj venus al mi. (§20)

*Se* la lernanto scius bone sian lecionon, la instruisto lin ne punus. (§20)

*Se* mi petus lin, li dirus al mi la veron. (§24)

Mi ne farus la eraron, *se* li antaŭe dirus al mi la veron (aŭ *se* li estus dirinta al mi la veron). (§24) [注意この aŭ の次の se の前には，はないが Mi ne farus la eraron, se li estus dirinta... といふ時は明かに Z博士は se の前に，をおくにちがひないからこの aŭ の次に，がないが之も，のある用例の中にかぞへておいてよいと思ふ。]

Mia ora ringo ne estus nun ne tiel longe serĉata, *se* ĝi ne estus tiel lerte kaŝita de vi. (§25)

*Se* vi scius, kiu li estas, vi lin pli estimus. (§26)

*Se* li jam venis, petu lin al mi. (§26)

...oni prenas ordinare la purajn radikojn, sed, *se* la bonsoneco aŭ la klareco postulas, oni povas ankaŭ preni la tutan vorton... (§27)

*Se* ni iam post prepozicio uzas la akuzativon, la akuzativo tie dependas ne de la prepozicio, sed de aliaj kaŭzoj. (§28)

*Se* ni bezonas uzi prepozicion kaj la senco ne montras al ni, kian prepozicion uzi, tiam ni povas uzi la komunan prepozicion "je." (§29)

*Se* ni a'donas al ili la literon "k," ni ricevas vortojn demandajn aŭ rilatajn: kia, kial... (§30)

*Se* ni aldonas la literon "t," ni ricevas vortojn montrajn: tia, tial... (§30)

猶次の一例は se の前に，がなく例外である。しかし之に於ても se の前には接續詞 ke がありその直前に ，があるから前の文と se との間に，がないわけではないから se の前の，を略したものと考へる。

El la dirita regulo sekvas, ke *se* ni pri ia verbo ne scias, ĉu ĝi postulas post si la akuzativon (t. e. ĉu ĝi estas aktiva) aŭ ne, ni povas ĉiam uzi la akuzation. (§29)

(f) **ol**

ol は元來接續詞であるが普通 ol をふくむ從屬文は完全な形であることが少い。併し ol は接續詞として兩文の接合點にあるもの故この ol の前に ,をおくことは當然である。

Lakto estas pli nutra, *ol* vino. (§10)

Mi havas pli freŝan panon, *ol* vi. (§10)

... via pano estas malpli freŝa, *ol* mia. (§10)

... ke ĝi estu pli sankta, *ol* la ses unuaj tagoj. (§12)

Fluanta akvo estas pli pura, *ol* akvo staranta senmove. (§22)

Pasero kaptita estas pli bona, *ol* aglo kaptota. (§22)

La reĝido konsideris, ke tia kapablo havas pli grandan indon, *ol* ĉio, kion oni povus doni dote al alia fraŭlino, ... (§23)

La ekstero de tiu ĉi homo estas pli bona, *ol* lia interno. (§31)

Liaj lipharoj estas pli grizaj, *ol* liaj vangharoj. (§31)

Rekta vojo estas pli mallonga, *ol* kurba. (§33)

Urbanoj estas ordinare pli ruzaj, *ol* vilaĝanoj. (§37)

Ekzercaro 中の用例には次の如き二つの例外がある。(この場合 ol の前に ,がおかれてゐない)。

Du homoj povas pli multe fari *ol* unu. (§12)

Mono havata estas pli grava *ol* havita. (§22)

猶 ol は主從兩文の接續といふよりも或る語句の修飾語の役目をしてゐるにすぎぬ時がある。この場合大抵 pli ol と合して用ひられる。この場合 *ol* の前へ ,をおかぬのがよいと思ふ。Ekzercaro のこの場合の用例は次の二個であつて一つには ,を加へ一つには ,がない。

... ke ĝi estos konstruata pli *ol* tri jarojn. (§25)

Li estas morte malsana, li ne vivos pli, *ol* unu tagon. (§31)

(g) **其他の接續詞**

其他の接續詞に於てもその接續詞にて他の文に結合せられた文を明示するため兩文の連接部に (,) をおくことが Ekzercaro 中の用例に於て原則的とみとめてよいと思ふ。次にそれらの接續詞とその用例を示し多少の例外については夫々の所で説明しよう。

**antaŭ ol** (複合接續詞)

Kiam vi venos al mi, li jam antaŭe diros al mi la veron (aŭ li estos dirinta al mi la veron; aŭ *antaŭ ol* vi venos al mi, li diros al mi la veron). (§24)

これは一寸見ると antaŭ ol の前に ,がないが實はこれが文首に來るものであることがあきらかでやはり antaŭ ol が文中にあればその前に ,があるものと考へてよい。唯この一用例のみであるから何とも云へないが。

**apenaŭ**

*Apenaŭ* ŝi venis al la fonto, ŝi vidis unu sinjorinon, tre riĉe vestitan, kiu eliris el ... (§19)

*Apenaŭ* ŝia patrino ŝin rimarkis, ŝi kriis al ŝi; «Nu, mia filino?» (§21)

apenaŭ の接續詞としての用例は上の二つであるがいづれも apenaŭ が文首にきた場合のみ。

**ĉu**

Kvankam vi estas riĉa, mi dubas, *ĉu* vi estas feliĉa. (§26)

...ke se ni pri ia verbo ne scias, *ĉu* ĝi postulas post si la akuzativon (t. e. *ĉu* ĝi estas aktiva) aŭ ne, ni povas ĉiam uzi le akuzativon. (§29) [注意：第三の ĉu は前にがないが略符の．があるし又その前の t. e. は接續詞と考へてもよい]。例外として次の一つがあるが之は ĉu のみでなく tute egale ĉu とつゞいた複合接續詞の樣な役目をしてゐるから一寸ちがつてゐる。

...en tiaj okazoj ni uzas la finaĝon "n" tute egale *ĉu* ia prepozicio starus aŭ ne. (§28)

尤も FK (§17) によるとこの ĉu の前に，がおかれてゐる。

**dum**

...kaj, *dum* ŝi parolis, elfalis el ŝia buŝo multego da diamantoj. (§17)

...li estas nur unufoja mensoginto *dum* vi estas ankoraŭ nun ĉiam mensoganto. (§22) [注意：FK (§12) によれば...mensoginto, dum vi...，が入つてゐる]。二例中一例は，があり他の一例にはないが後の例は，がおちたものかもしれない。FK では，が入つてゐるのに見ても。

**kvankam**

*Kvankam* vi estas riĉa, mi dubas, ĉu vi estas feliĉa. (§26)

Ĉemizojn, kolumojn, manumojn kaj ceterajn similajn objektojn ni nomas tolaĵo, *kvankam* ili ne ĉiam estas faritaj el tolo. (§35)

Germanoj kaj francoj, kiuj loĝas en Rusujo, estas Rusujanoj, *kvankam* ili ne estas rusoj. (§37)

Ŝi edziniĝis kun sia kuzo, *kvankam* ŝiaj gepatroj volis ŝin edzinigi kun alia persono. (§39)

**nek**

Mi renkontis nek lin, *nek* lian fraton (aŭ mi ne renkontis lin, *nek* lian fraton.

nek が二つ相伴つて用ひられる場合初めの nek は ne と同じ位な役目をするものであつて之は接續詞とみるよりも副詞的助辭と見るべきものと思ふ。第二番目の nek は接續詞である。この前には，をおく。

**por ke** (ke の項參照)

猶この外に sekve, tial, tio estas の如きものが接續詞の如く用ひられてゐる用例についてみても同樣のことが云へる。こゝではこれらについて一々のべない。

(ĝ) 關係詞

關係詞は接續詞の役目も兼ねたものであるから接續詞と同樣である。即ち關係詞で他の文に結合せられた從屬文を明示するため主從兩文の連接部へ（，）をおく。

而して Ekzercaro 中のすべての關係詞の用例中之に對する例外は殆んどない。次にその用例を示すことにする。但し關係詞直前に kaj その他の接續詞があつてその接續詞の前に，があれば關係詞前の，は略される。猶又關係詞の直前に前置詞が來れば，はその前置詞の前へおかれることは云ふ迄もないことである。

**kia**

...kaj la senco ne montras al ni, *kian* prepozicion uzi, tiam... (§29)

**kial**

Kiam tiu ĉi bela knabino venis domen, ŝia patrino insultis ŝin, *kial* ŝi revenis tiel

malfrue de la fonto. (§17)

**kiam**

...trie mi petas vin ankaŭ poste prunti al mi, *kiam* mi bezonos monon. (§14)

En unu tago, *kiam* ŝi estis apud tiu fonto, venis al ŝi malriĉa virino... (§15)

*Kiam* la bona virino trankviligis sian soifon, ŝi diris al la knabino... (§15)

*Kiam* oni estas riĉa (aŭ riĉaj), oni havas multajn amikojn. (§16)

*Kiam* tiu ĉi bela knabino venis domen, ŝia patrino insultis ŝin, kial ŝi... (§17)

Kaj *kiam* ŝi parolis tiujn ĉi vortojn, elsaltis el ŝia buŝo tri rozoj, tri perloj kaj tri grandaj diamantoj. (§17) [注意：この際 kiam の前に，がない。これは直前に kaj があるから。]

Marinjo, rigardu, kio eliras el la buŝo de via fratino, *kiam* ŝi parolas;... (§17)

...; kaj *kiam* malriĉa virino petos de vi trinki, vi donos ĝin al ŝi ĝentile. (§17) [注意：kiam の直前に kaj があるので kiam の前に，なし]。

...; *kiam* mi finos mian laboron, mi serĉos mian horloĝon,... (§20)

*Kiam* mi venis al li, li dormis; sed mi lin vekis. (§20)

*Kiam* Nikodemo batas Jozefon, tiam Nikodemo estas la batanto kaj Jozefo estas la batato. (§22)

*Kiam* vi vidis nin en la salono, li jam antaŭe diris al mi la veron... (§24)

*Kiam* vi venos al mi, li jam antaŭe diros al mi la veron... (§24)

*Kiam* vi venos, diru al mi la veron. (§24)

*Kiam* mia patro venos, diru al mi antaŭe la veron... (§24)

*Kiam* via domo estis konstruata, mia domo estis jam longe konstruita. (§25)

*Kiam* li estis ĉe mi, li staris tutan horon apud la fenestro. (§26)

La artikolo "la" estas uzata tiam, *kiam* ni parolas pri personoj aŭ objektoj konataj. (§27)

Sed ni ne uzas la akuzativon tiam, *kiam* la klareco de la senco tion ĉi malpermesas;... (§29)

Kelkaj homoj sentas sin la plej feliĉaj, *kiam* ili vidas la suferojn de siaj najbaroj. (§32)

*Kiam* mi ien veturas, mi neniam prenas kun mi multon da pakaĵo. (§35)

*Kiam* vi ekparolis, ni atendis aŭdi ion novan, sed baldaŭ ni vidis, ke ni trompiĝis. (§40)

...tubeto, en kiun oni metas cigaron, *kiam* oni ĝin fumas, estas cigaringo. (§40)

**kie**

...mi montris al la infano, *kie* kuŝas ĝia pupo. (§18)

La reĝido...petis ŝin, ke ŝi diru al li, de *kie* tio ĉi venas. (§23)

La reĝido...forkondukis ŝin al la palaco de sia patro, la reĝo, *kie* li edziĝis je ŝi. (§23)

**kiel**

Mi estas tiel forta, kiel vi. (§10)

...por vidi, *kiel* granda estos la ĝentileco de tiu ĉi juna knabino. (§15)

Mi zorgas pri ŝi tiel, *kiel* mi zorgas pri mi mem; ... (§18)

... por vidi, *kiel* granda estas la malboneco de tiu ĉi knabino. (§19)

Tiu ĉi malfreŝa pano estas malmola, *kiel* ŝtono. (§33)

... kaj tial la (tre malmultajn) vortojn kun «um» oni devas lerni, *kiel* simplajn vortojn. (§42)

〔例外〕 Ĝia uzado estas tia sama *kiel* en aliaj lingvoj. (§27)

Nia regimentestro estas por siaj soldatoj *kiel* bona patro. (§37)

猶 kiel eble pli の如きは kiel は pli の次の形容詞又は副詞の如き語を修飾するもので文にかゝるものでないがかゝる場合 kiel の前に , をおかない。(この例 §29 にあり)。

**kio**

La malfeliĉa infano rakontis al ŝi naive ĉion, *kio* okazis al ŝi, kaj ... (§17)

Marinjo, rikardu, *kio* eliras el la buŝo de via fratino, kiam ŝi parolas ... (§17)

... li demandis ŝin, *kion* ŝi faras tie ĉi tute sola kaj pro *kio* ŝi ploras. (§21) [注意: この後の場合の kio は直前に前置詞 pro がありその前に又接續詞 kaj があるので , は kaj の前へおくべきである。これにはおいてゐないが]。

... ke tia kapablo havas pli grandan indon, ol ĉio, *kion* oni povus doni dote al alia fraŭlino ... (§23)

Mi volas, ke tio, *kion* mi diris, estu vera ... (§24)

Mi neniel povas kompreni, *kion* vi parolas. (§28)

Li tuj faris, *kion* mi volis, kaj mi dankis lin ... (§31)

... kaj mi de teruro ne sciis, *kion* fari. (§38)

**kiu**

Jen estas la pomo, **kiun** mi trovis. (§6)

... ke ĉiu, *kiu* ŝin vidis, povis pensi, ke li vidas la patrinon ... (§11)

La pli juna filino, *kiu* estis la plena portreto de sia patro ... estis krom tio unu el la plej belaj knabinoj, *kiujn* oni povis trovi. (§11)

Ĉar ĉiu amas ordinare personon, *kiu* estas simila al li, tial ... (§13)

Unue mi redonas al vi la monon, *kiun* vi pruntis al mi ... (§14)

... venis al ŝi malriĉa virino, *kiu* petis ŝin, ke ŝi donu al ŝi trinki. (§15)

... (ĉar tio ĉi estis feino, *kiu* prenis sur sin la formon de malriĉa virino ...) (§15)

... ke ĉe ĉiu vorto, *kiun* vi diros, el via buŝo eliros aŭ floro aŭ multekosta ŝtono. (§15)

Ŝi prenis la plej belan arĝentan vazon, *kiu* estis en la loĝejo. (§19)

... ŝi vidis unu sinjorinon, tre riĉe vestitan, kiu eliris el la arbaro kaj petis de ŝi trinki (tio ĉi estis tiu sama feino, *kiu* prenis sur sin la formon ...) (§19)

... ke ĉe ĉiu vorto, kiun vi parolos, eliros el via buŝo aŭ serpento aŭ rano. (§19

La filo de la reĝo, *kiu* revenis de la ĉaso, ŝin renkontis ... (§21)

Homo, *kiun* oni devas juĝi, estas juĝoto. (§22)

La reĝido, *kiu* vidis, ke el ŝia buŝo eliris kelke da perloj ... (§23)

...kaj trovinte neniun, *kiu* volus ŝin akcepti, baldaŭ mortis en angulo de arbaro. (§ 23)

La pastro, *kiu* mortis antaŭ nelonge (...), loĝis longe en mia urbo. (§ 25)

...el la kaldrono, en *kiu* sin trovas bolanta akvo, eliras vaporo; tra la fenestro, *kiu* sin trovas apud la pordo, la vaporo iras sur la korton. (§ 25)

Se vi scius, *kiu* li estas, vi lin pli estimus. (§ 26)

La personoj, *kiuj* ne komprenas la uzadon de la artikolo (...), povas en la unua tempo tute ne uzi la artikolon... (§ 27)

...(sed nur post prepozicio, *kiu* finiĝas per vokalo). (§ 27)

...(=tablo, sur *kiu* oni skribas); internacia (=*kiu* estas inter diversaj nacioj);... unutaga (=*kiu* daŭras unu tagon); unuataga (=*kiu* estas en la unua tago); vaporŝipo (=ŝipo, *kiu* sin movas per vagoro)... (§ 27)

La fera bastono, *kiu* kuŝis en la forno, estas nun brule varmega. (§ 31)

*Kiu* okupas sin je meĥaniko, estas meĥanikisto, kaj *kiu* okupas sin je ĥemio, estas ĥemiisto. (§ 32) [注意：第二番目の kiu はその前に kaj がありその前に，があるから kiu の前に，をとらぬ]。

Glaso de vino estas glaso, en *kiu* antaŭe sin trovis vino, aŭ *kiun* oni uzas por vino... (§ 32) [注意：kiun の前に接續詞 aŭ あり]。

Metro de drapo signifus metron, *kiu* kuŝas sur drapo, aŭ *kiu* estas uzata por drapo. (§ 32) [注意：第二の kiu の前に接續詞 aŭ あり]。

Li sentis sin tiel malfeliĉa, ke li malbenis la tagon, en *kiu* li estis naskita. (§ 33)

...manĝilaron, *kiu* konsistis el telero, kulero, tranĉilo, forko, glaseto por brando... (§ 34)

Virino, *kiu* kuracas, estas kuracistino... (§ 36)

Germanoj kaj francoj, *kiuj* loĝas en Rusujo, estas Rusujanoj, kvankam ili ne estas rusoj. (§ 37)

La domo, en *kiu* oni lernas, estas lernejo, kaj la domo, en *kiu* oni preĝas, estas preĝejo. (§ 40)

Magazeno, en *kiu* oni vendas cigarojn, aŭ ĉambro, en *kiu* oni tenas cigarojn, estas cigarejo; skatolo aŭ alia objekto, en *kiu* oni tenas cigarojn, estas cigarujo; tubeto, en *kiun* oni metas cigaron, kiam oni fumas, estas cigaringo. (§ 40)

Skatolo, en *kiu* oni tenas plumojn, estas plumujo, kaj bastoneto, sur *kiu* oni tenas plumon por skribado, estas plumingo. (§ 40)

...eĉ la plej nekredeblajn aferojn, *kiujn* rakontas al li la plej nekredindaj homoj, li tuj kredas. (§ 41)

以上について大體接續詞及關係詞についての研究をつくしたと思ふ。

之を要するに接續詞又は關係詞にて他の文に結合せられた文を明示するため兩文の連接部に(,)をおくのが普通であるが之に次の二つの例外といふべきものがある。

（1） 接續詞又は關係詞の前に他の接續詞（その接續詞の前に，があることが多い）が來た際は，が略される。

（2） 關係詞の前に前置詞がくれば（,）は前置詞の前におかれる。（以下次號）。

# Pri la "Originala Verkaro"

## Tria parto

**W. Bailey. L K-ano**

164. 7. *nian lingvon kaj nian aferon*
32. *tuta* anst. *tute* (la dua)
165. 29. *prava* „ *grava*
33. *tute* „ *tuta*
35. *esperantista*
41. forigu komon post *proponon*
167. 20. komo ĉe la fino
24. *de tiaj „novaj lingvoj"*
168. 5. *Kontraŭ kiu*
15. *iros* anst. *iras*
20. *tio* „ *tiu*
169. 8. *Sed* „ *Se*
15. *publiko* ne dise.
170. 1. *estos* anst. *estas*
39. „ „ „
171. 2. la gazeto havas *multoj da homoj*, sed devus esti *multaj homoj*
22. „ „ „ *tiu*, sed devas esti *tio*.
172. 17. *ni* devus esti presita dise
18. *nia* „ „ „ „
173. 6. *havus* anst. *havas*
174. 2. *perdus* „ *perdas*
21. *preteksto*
36. forigu komon post *ĝin*
175. 38. *ŝanĝojn* anst. *ŝanĝon*
43. *se* dise
176. 7. *mi* dise
12. *fulmoforigilo*
176. 35. forigu komon
38. *memoros*
177. 12. *per unu fojo* dise
19. forigu komon post *povas*
178. 7. „ „ „ *bezonoj*
12. „ „ „ *afero ; povos* anst. *povus*
43. *povos* anst. *povas*
179. 10. „ „ *povus*
14. *kajeroj, unu kajero en monato;*
180. 12. komo post *pensas*
13. *kiu estis iam*
17. forigu komon post *manojn*
18. *tia* anst. *tiu*
22. *Kiaj* „ *kiaj*
29. forigu komon post *kaj*
30. „ „ „ *mokoj*
32. „ unu el la ekkriaj signoj
33. ,“ anst. “,
39. du ekkriaj signoj anst. punkto
181. 3. ,“ anst. “,
5. komo post *kaj*
7. *kronataj*
39. *en unu bela mateno per unu fojo*
43. forigu komon post *venkon*
183. 18. „ *ĉu*
184. 2. *aprobata*
185. 1. forigu komon post *reformojn*
27. *ol* ne dise
29. *Esperantistoj*
36. streko anst. komo post *rezultaton*
40. *Esperantistoj*
186. 5. forigu komon post *sola*
7. *Esperantistoj*
12. forigu ambaŭ komojn
36. „ *akcepti*
39. *Esperantistoj*
187. 11. *anoncita*
42. *estas verkita ne de* (erareto de la redaktoro)
188. 6. *por* dise
23. *plendo*
189. 17. *personoj* anst. *proponoj*
31. forigu punkton (vidu pri l. 34)
34. ). anst. .)
190. 17. *da* „ *de*
191. 15. *Esperantistoj*

19. forigu komon post *neceso*
34. *fariĝos aŭ ne fariĝos*
192. 16. *diversakarakteraj*
25. forigu komon post *petata*
32. *aldonoj* anst. *eldonoj*
193. 20. komo antaŭ *pri*
194. 31. forigu "*Rimarko de la administracio ;* ĝi apartenas al alia paragrafo en la gazeto, ne represita en la Originala Verkaro
194. 36. *Forkarth ; Almeida.*
195. 4. forigu punkton (vidu pri l. 5)
5. ). anst. .)
35. *per unu fojo* dise
197. 32. *Kergorlay*
35. *Neftalimov*
36. *495* anst. *459*
199. 4. komo post *kiam*
200. 18. *Kanaloŝŝy-*
19. *Grabowski*
21. *de la konkurso*
201. 12. *paĝ. 19–20*
24. komo post *ĉiu*
203. 21. *disiras* anst. *deziras*
34. *Esperanta*
42. *dis-* (ĉe mia ekzemplero la streketo defalis)
204. 41. *ĉiujn* anst. *ĉiajn*
207. 16. forigu *la*
25. *havos* anst. *havas*
29. punktokomo anst. la dua komo
35. *Bibliotekon* dise
40. *faros* anst. *faras*
208. 14. *al objektoj*
41. forigu komon post *eblon*
209. 25. komo post *kovertoj*
35. *iliaj* anst. *aliaj*
209. 44. *esperant-*
210. 21. *pri nia afero*
32. *fariĝis*
211. No. 99. Mi ne havas la originalan tekston de ĉi tiu folio, sekve mi ne povas kontroli.
No. 100. Ankaŭ ĉi tion mi ne havas; cetere la traduko ne estas Zamenhofa.
216. 10. *specialecon* anst. *specialon*
42. *malfacila*
217. 13. *la* post *lingvoj*
40. *n:o* anst. *n-ro*
218. 5. *N:o* anst. *N-ro*
11. *prezentantajn*
21. *I. Lojko*
26, 29. *n:o*
34. komo post *personoj ;* forigu komon post *rubloj*)
219. 3. *mezonombre*
41. *I*) *plena* sen *la*
220. 1, 2, 4, 5, 6. *n:o*
2. *logia al*
19. *10-hora* anst. *10-a hora*
28. *N:o*
221. 36. forigu komon post *ke*
37. „ „ „ *Kongreso*
222. 21. *Neatendite*
31. *Esperantistoj*
33. *raportos*
222. 34, 36. *Esperantistoj*
223. 4. *Esperantan*
8, 12. *Esperantistoj*
14. *apartenos*
22. *Esperanta*
23. *ia* anst. *la*
28. *Esperantistoj*
38. *Esperantistaro*
40. *Esperantistoj*
42. *kiom* anst. *kiam*
224. 3. *Esperantistoj*
8. *tute* anst. *tuta*
12. *mi ja tamen*
14. *Esperantisto*
225. 8. *Esperanta*
27. *Esperantistojn*
28. *nemeritilajn*
36. *Esper-* (41. kredeble *ke* anst. *se,* tamen *se* en L. Int.)
43. *Esperantistoj*
226. 6. *al ĝi mem* dise

9, 12, 24, 29. *Esperanta*
12. *Esperantistoj*
20. *Esperantista*
24. *Esperanta*
26. *sur lia libro*
27. *kaj aprobado nur en...*
28. *konsento* anst. *kunsento*
226. 38. *precipe* anst. *principe ; Esperantan.*
227. 29. *Tiaj* anst. *Tial*
228. 19. *estos* anst. *estas ; altirus* en L. Int., tamen devus esti *altiros*
39. *havis* anst. *havas*
229. 8. *k. t. p.* laŭ Z. kutimo, tamen *ktp.* en L. Int.
15. forigu komon post *gazetoj*
26. *Esper-*
230. 1. forigu komon
7. *Mi kore* dise
17. *ĉesos energie laboradi*
27. forigu komon post *celon*
35. „ „ „ *persono* (erareto ankaŭ en L. Int; la komo taŭgas)
37. *iradas*
231. 2. *rajton de voĉo havas ne apartaj personoj, sed nur la grupoj. Rajton de voĉo en*
3. *ligo* anst. *Ligo* (tamen *Ligo* estas ĝusta: kp. l. 4.
13. tiel en L. I., tamen devus esti *Komitato* anst. *Organo*
20. *malpli ol 25, la Kongreso alelektas la mankantan nombron, kaj se la nombro da elektitaj reprezentantoj estas pli ol 25,*
29. *rajtigis*
233. 15. *de tiu aŭ alia esprimo en Esperanto aŭ pri la akceptebleco de tiu aŭ alia vorto nova*
33. *Kongresoj*
34. *esperantistaj*
35. *partoj : a)*
234. 5. *devas*
234. 14. *Afero* (supozeble erareto en la gazeto.)
17. forigu komon antaŭ *kaj* (supozeble erareto en la gazeto; la komo taŭgas)
39. *ĉiajn* anst. *ĉiujn*
41. forigu komon post *Komitato* (supozeble erareto en la gazeto; la komo taŭgas)
235. 7. „ „ „ *konvinkiĝis* ( „ „ „ „ „ )
12. forigu komon post *Esperantista*
15. *simile* anst. *simila*
17. *proponos* „ *proponas*
236. 9. forigu komon post *pensas* (tamen la komo taŭgas)
12. *por la ideo*
16. *ktp. Se* en L. Int., tamen devus esti *k. t. p. Ne*
24. *rebatilo kaj propagandilo en la manoj de ĉiu esperantisto kaj fermu*
36. komo post *akcepti*
237. 16, 17, 22, 32. *Esperantismo*
19. *Esperantista*
20. *lingvo*
21. punkto post *klarigon* (anst. punktoparo)
31. komo post *esperantismo* (minuskolo ĉi tie, tamen devus esti *Esperantismo*, kiel aliloke)
35. *provoj* anst. *pruvoj ; faritaj* ne dise
40. *nenio* anst. *nescio ;* forigu komon post *nenio*
238. 1. *pli bone, pli certe kaj pli rapide,*
18. *La sola unu fojon por ĉiam* (sen komo)
20. komo antaŭ *en kiu*
25. *esprimata*
27. komo post *same*
238. 29. forigu komon post *rekomendate*
37. komo post *lingvo*
44. „ „ *egale*
239. 22. forigu komon post *al mi*
26. *Esperanta*
31. forigu streketon post *amikojn*
240. 1. *gazetaj artikoloj ; Esperantistoj*

7. *Kongreso*
11. *Esperantistoj*
15. *komitatoj kaj de la komitatoj*
20. forigu komon; *kreitaj*
23. „ „ (tamen ĝi estas taŭga)
31. *S-ro; Rektoro*
32. *Por; S-ro; Generalo*
241. 10. komo post *artikolo*
18. *Esperantisto*
19. forigu komon
25. *Esperanta Stilo*
33. *devis*
34. *karakterecon*
39. komo post *kaj*
242. 6. *Esperantistoj; verkoj* anst. *vortoj*
12, 29, 35, 37, 44. *Esperanta*
16. *ne multaj*
25. *longa praktika uzado*
42. *moratoj*
242. 43. *Aŭgusto*
243. 33. forigu komon post *esaj* (tamen ĝi taŭgas)
44. *Esperantiston*
244. 3. *prenis, kaj kiun kelkaj invititaj de vi Esperantistoj aŭ ankaŭ ne bone komprenis, aŭ tradukis malsame!*
7. *Esperantisto*
23. *tradukado*
245. 19. forigu komon post *Verlag*
246. 11, 18. *Esperantistoj*
16. forigu komon antaŭ *fina*
30. *Esperanta*
41. forigu punkton post *62*
247. 1. *Esperantiston*
4. *Esperantistoj*
23. forigu komon post *registaron*
29. *Esperanta*
32. forigu komon post *al mi*
39, 40. *Esperantisto*

# Pri Ĉina Litero kiel Monda Litero

S. NOMURA.

Literoj de l' homaro dividiĝas en du specoj kiel jene:

(a) fonetika litero (reprezentanto; Latina alfabeto)

(b) ideografia litero (reprezentanto; Ĉina litero)

(A) Fonetika litero kopias lingvon. Nia lingvo konsistas el sonoj, sekve fonetika litero estas sona litero. Fonetika alfabeto havas multajn specojn, sed Latina alfabeto estas reprezentanta.

(B) Ideografia litero reproduktas pensadon (aĵojn kaj aferojn) kiel bildon. Ĉina litero estas reprezentanta ideografiaĵo. Matematikaj simboloj estas unu speco de ideografio.

Ni havas multajn; ĉirkaŭ kvardek mil; sed radikalaj fundamentaj vortoj estas ne pli multaj ol tri mil. Ni memoras du aŭ tri mil vortojn el nia lingvo ĝis la sesa aŭ sepa aĝo en hejmo. Ni ankaŭ lernas du aŭ tri mil vortojn el fremda lingvo en lernejo en aĝoj de dektri ĝis dekok.

Ĉinaj literoj havas unuope unu signifon; ĉiu litero estas unu vorto. Ĉinaj literoj sumas ĉirkaŭ kvardek mil. Sed radikalaj, necesaj literoj estas

ne pli multaj ol tri mil. Ni lernas du-mil literojn en elementa lernejo dum ses jaroj.

Fonetikaj literoj ne havas signifon. Kontraŭe, ideografiaj literoj ne havas elparoladon. Valoro de fonetiko estas en sia elparolado. La fonetika havas nur malmultajn literojn. Ĝi estas legata litero, sed ne koniga litero.

Valoro de ideografiaj literoj estas en ĝia komprenebla signifo. Ĝi estas malkonvena por legado. Ĝia multeco ŝajnas malfacila por lerni en lernejo. Sed kiam ni memorus ideografiaĵon, tiam ni trovas, ke ĝi estas treege konvena ĉe transdono kaj akiro de pensado.

Mi komparas Ĉinan literon kun Angla lingvo.

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ideografiaĵo | 人, | 山, | 川, | 犬, | 馬 |
| fonetiko | man, | mount, | river, | dog, | horse |
| ideografiaĵo | 吾 | 行 | 於 | 學一校 | |
| fonetiko | I | go | to | school | |

{Fonetiko estas tute *legata litero,* nek impresa, nek intuicia.
{Ideografiaĵo estas tute *impresa litero, intuicia litero.*

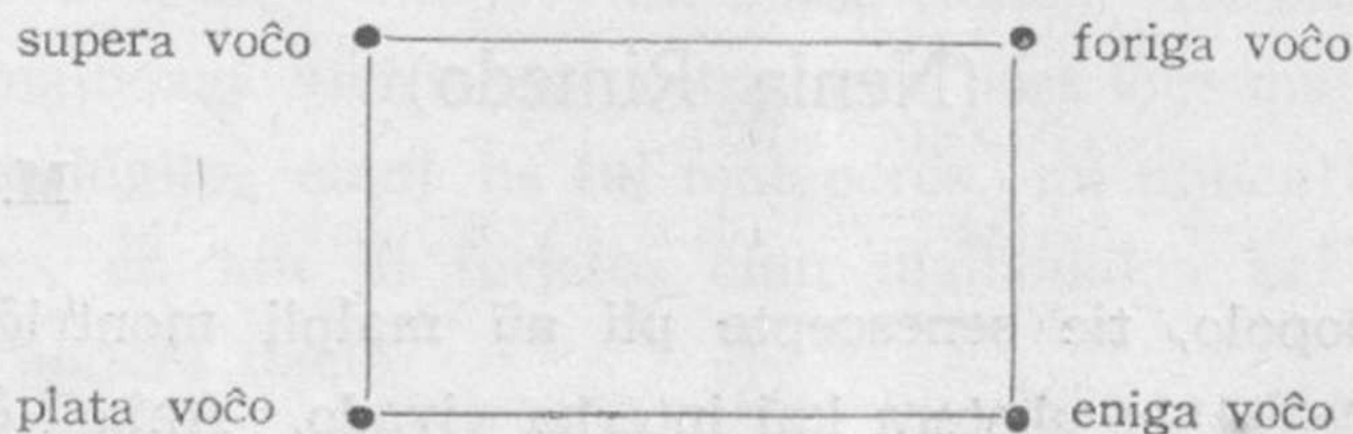
En matematika simbolo

128 | 3+17=20
cent du dekok. | tri plus deksep egalas dudek.

{Simbolo, signo=intuicia, same kiel ideografiaĵo.
{Fonetiko =legada, ne intuicia.

Ideografio havas gravecon en sia signifo, sed en legado. Kiel ajn legado estas, la signifo estas ne ŝanĝebla.

Ĉina litero, laŭ kutima leĝo, devas esti legata kiel ĉina maniero. Sed ĉina lingvo apartenas al monosilaba lingva familio. Ĉiu vorto havas nur unu silabon, pro tio ĉiuj vortaj signifoj estas tre eraratraj. Do, ĉiu vorto havas specialan akcenton. Oni nomas tion "kvar voĉoj" (四聲).




Ĉina lingvo por eviti eraron uzas ankaŭ sinonimon duope.

ekzemple: 身體 (ŝin taj) 山岳 (san gak).

身 (korpo) 體 (korpo)=sinonimo

山 (monto) 岳 (monto)=sinonimo

Mi ŝatas ĉian literon ĉina litero estas la sola ideografio lerte kreita.

Nuntempe nova kreado de tiaj multaj ideografioj estas malfacila.

Mi ŝatas ĉinan literon kiel universalan simbolaron. Sed ĝia elparolo devas esti libera. Japanoj havas japanan prononcon, angloj havas anglan prononcon.

Ĉina litero estas monda ideografio, kiel se Latina litero estus monda fonetiko. Ĉina litero devas havi mondan prononcon. Kaj tio ĉi estas ja esperanta prononcado. En tiu ĉi okazo esperanta prononcado estas modela, kaj la prononcado de ĉiuj lingvoj estus dialekta prononcado.

Kiel ekzemple;

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| Ideografiaĵoj | 醫生 | 立了 | 一個 | 醫院 |
| Monda legmetodo | kuracisto | konstruis | unu | hospitalon. |
| Lokaj legmetodoj | | | | |
| **Ĉina** | **Ij-ŝon** | **li-la** | **Ij-ko** | **Ij-en.** |
| **Angla** | **Doctor** | **has built** | **one** | **hospital.** |
| **Japana** | **I-ŝa ga** | **hitocu no** | **I-in ŭo** | **tateta.** |

Sed rilate al konstruado de frazo, ĝi ne estas al la problemo de litero. Logika formo de frazo, kiu sin trovas en esperanta formo, estas la plej supera. Do, mi ŝatas ĉinan literon, sed pri frazo mi preferas esperantan formon.

En estonteco la formo de ĉina lingva frazo, mi supozas, nepre iĝas al esperanta formo. Mi esperas firman starigon de Esperanto, sed mi ankaŭ deziras ĉinan literon kiel universalan simbolon.

Fonetiko kaj ideografio ne estas konkurantoj unu la alia, sed kunvivantoj ili devas esti.

# "MEJ-FA-ZU"

## (Nenia Rimedo)

M. OOTANI

Kie vivas popolo, tie senescepte pli aŭ malpli montriĝas la propraj vivrimedoj rilate al la ekstera kaj interna vivado. Ankaŭ ĉe la indiĝenoj de la nova ŝtato Manĉukŭo ekzistas diversaj karakterizaj vivrimedoj, inter kiuj troviĝas unu tre menciinda karakterizo en la flanko de ilia interna vivado. Mi volas ĝin prezenti mallonge en tiu ĉi artikolo.

Ĝi estas " Mej-fa-zu " (Nenia Rimedo)

Enloĝante inter ili aŭ travojaĝante en Manĉukŭo oni ofte renkontas

tiun vorton el la buŝoj de la indiĝenoj. Ĉiutage ili disponadas ĉiun malfacilaĵon per tiu iom profitema vivrimedo. Por ĝisfunde ekscii la landon kun la indiĝenoj la studado pri ilia "Mej-fa-zu" estas tre grave.

Kiamaniere ili agas per tiu vorto? Ekzemple, oni ordonas lavi telerojn al indiĝena servisto, kaj kiam li hazarde ĝin disrompis, li nur diras "Mej-fa-zu" sen ia esprimo de pento, hontiĝo aŭ pardonpeto; dume, en la kazo de japanoj, la kulpulo hontiĝas kvazaŭ li faris la plej malbonan fiagon kaj la ordoninto lin severe riproĉus pri lia senatenteco. Laŭ li tiu farita kulpo ne indas je longa plendemo kaj pento; nek farota, nek farata, sed jam farita ĝi estas, li faris tion ne intence, kompreneble de nun li devas fari ĉion kun atentemo, krome kia ajn li pribedaŭrus, la disrompita objekto neniam reformiĝas! Kaj se la ordoninto ankaŭ estas indiĝeno, li ne riproĉas lin laŭ la opinio, ke la rompita objekto ne reiĝas per riproĉo. Kiam iliaj gepatroj aŭ infanoj mortas, kelktempe ili priploras, sed tuj ĉesas tion kaj enmetas tion en "Mej-fa-zu-aĵo." Nome la devizo "Mej-fa-zu" devenas de tio, ke la homoj ne devas koruzi pri aferoj, por kiuj restas *Nenia Rimedo.* Tiu vivrimedo estas kompreneble rekomendinda en ia kazo, tamen ilia "Mej-fa-zu-ismo" estas tre regresa kaj negativa, kaj oni trouzas tiun ismon— tiel ofte, ke tio malhelpis la progreson de la civilizacio de la lando. Ekzemple, en iu vilaĝo la vojoj estas malbonaj kaj en pluva vetero estas tiel kotplenaj, ke oni povas apenaŭ piediri. Se ĉiu vilaĝano farus plibonigon iamaniere, la vojo pli boniĝus, ili tamen ankaŭ tion atribuas al la malŝatinda kategorio de la "Mej-fa-zu" kaj ĉe ĉiu pluva vetero oni suferas sen plendemo, kvazaŭ tio estus ilia sorto. Ili ne klopodas venki malfacilaĵon, kio estas videbla tro multe en ĉiu flanko de ilia vivado. Pro tiu ilia facila rezignemo, antaŭe la lando mem malvigliĝis.

Depost la fondiĝo de la nova ŝtato Manĉukŭo sub la principo de harmonio kun la Kvin Gentoj,... Manĉuoj, Ĥanoj, Mongoloj, Japanoj kaj Koreoj, iliaj malbonaj vivrimedoj estas iom post iom malaperantaj kvankam tiuj enradikigitaj emoj ne tuj malaperos, mi tamen kredas, ke certe venos la tempo, en kiu ili forĵetos ĉiun malbonaĵon kaj klopodos al la firmigo de sia honora nacio.

---

# Japanaj Epigramoj

**T. NAKAMURA**

本ぶりになつて出て行く雨宿り

Ve! en konstanto
*Pli* pluvegas—ekiras
Ho, rifuĝanto!

○

うたゝねの書物は風がくつてゐる

Al dormetanto,
Da libron foliumas
Senĉese l' vento!

○

うたゝねの顔へ一冊屋根にふき

Pro dorm' (*leganto*) ne legas,
La libron sur vizaĝon
Tegmente tegas.

○

添乳してつい洗たくが夢になり

Jen ŝi mamnutras,
Baj, baj... kaj jam lavendaĵ,
En sonĝo putras.

○

來る人を虫が知らせる草の庵

Pri venanta hom'
Insektoj signas per mut'—
Herbodensa dom'.

○

よくゆうて惡くいはれる後家の髪

Bele ornamas
Al si *vidvin*'—despli ŝi
Male disfamas.

○

黒犬を提灯にする雪の道

Neĝas en abund"
Sur nokta voj' lanterne
Gvidas nigra hund'.

○

一大事花よめとうも屁が出さう

Ho, akcidento!
"Novedzinon" minacas
*Komika vento.*

戸をあけておやおやおやと雪の朝

Krioj ĉe kulten'
Malfermita: ho, ho, ho!
Jen neĝa maten'.

○

早乙女や子の泣く方へ植えて行く

Plantad' en fervor'—
Rizplante iras patrin'
Al infan' en plor'.

○

女房のやく程亭主もてもせず

*Lin* ne amuzas
Inoj—ja kiom *lia*
Edzin' ĵaluzas.

○

町内で知らぬは亭主ばかりなり

Kiu en nia
Kvartal' nescias—sola,
Jen *edzo ŝia!*

○

大男總身に智慧がまはりかね

Tro kolosa vir'
Ke l' saĝo ne atingas
Kapon eĉ per tir'.

○

犬を見て猫は背中へ腹を立て

Hundo bojkrekrevas,
Kato al si la galon
En dorson levas!

○

寢て居ても團扇の動く親心

Ventumil' en man'
Eĉ dormante karesas
Pro patrina am'.

○

孝行をしたい時には親がなし

Filoj inklinas
Al obe'—la gepatroj
Jam vivon finas.

# 失はれた大地（第二回）

Kisaku TABATA

## 第一幕

### 第二場

その日の夜。街路。ガス燈がにぶい光を放つてゐる。ロシア人やドイツ人、ラトヴィア人、等が往來する。新聞賣子の鈴の音。通行人、新聞を買ふ。

**通行人一**　（夕刊を開いて）なになに？　パステン氏の自殺だと？（通行人二に）おい、パステン氏が死んだとさ。

**通行人二**　へえ？　あのパステンが……

**通行人一**　（讀む）——波蘭物產株式會社取締役、A. H. パステン氏は、本朝、自宅書齋に於てピストル自殺を遂げた。同會社は、近年の不況の影響を受け、財政極度に逼迫なし居り、パステン氏はかねて是が調整に奔走中、漸くその曙光を見るに至つた矢先、たまたま歐洲の政局、急を告ぐるに至り、前途の見通しつかず、遂に引責自殺を決行するに至つたものと觀られ、各方面の同情を集めて居る。……

**通行人二**　氣の毒なことをしたなア。

**通行人一**　矢張り、此んな時世でア商業株は駄目だ。

**通行人二**　何と云つても軍事インフレか。軍需株は十割方の暴騰だぜ。

**通行人一**　うム、鰻上りに上つて行く。此の調子ぢやア戰爭はまぬかれないだらうな。

ロシアの市內巡羅隊が將校に引率されて通る。通行人達は道をよける。軍隊が通りすぎると暫くして上手からルドルフ、登場。焦悴した顏。あてどもなく步く。下手からアダムが出て來る。二人、突き當る。ルドルフ、倒れる。

**アダム**　氣を付けろ。

**ルドルフ**　これはどうも失禮いたしまして……。（顏を上げて）あツ、お前——（と、云はうとして口をつぐむ）

**アダム**　（ルドルフを　視て）猶太人奴だな。

**ルドルフ**　は、はい。（と、唾を呑む）

**アダム**　（舌打）汚らはしい奴だ。早く行け。

**ルドルフ**　（もぢもぢする）

**アダム**　早く行かんか。——氣味の惡い奴だな。（去る）

**ルドルフ**　（つと、ガス燈の下へ走つて行きポケツトからアダムの寫眞を取り出してみる）彼だ。（アダムの去つた方向をみて）確かにさうに違ひない。（よろめき乍らその跡をつけて退場）

ザメンホフとステフアン、話しながら出て來る。

**ザメンホフ**　——波蘭がロシアに對して最後の抵抗を試みたのが一八六三年、恰度、私が四つの歲です。私の棲んでゐたビヤリストツクの町にも騷亂が起りました。ロシア人、ポーランド人、ドイツ人、ユダヤ人、それらの四つの人種が、その町に雜居してゐて、絕えずいがみ合つてゐるんです。元を洗へば些細なことでも、言葉の通じない處から誤解が生じて、何時も鬪爭の絕え間がありませんでした、そこへ騷ぎが持ち上つたから堪りません。四つの人種が互ひに血を血で洗ひ、ロシア人はポーランド人を、ポーランド人はユダヤ人をと云ふ風に、至る處で醒慘な虐殺が始まりました。子供心にも、當時の恐ろしかつた憶ひ出が、一つ一つ、胸にこびりついて、未だに拭ふべくもなく汚點となつて殘つてゐる位です。どうしたら人々の憎しみを和らげ、皆んなが仲好くくらせる樣になるだらうか……、年と共に私は此の問題を眞劍に考へるやうになつて來ました。これが、私が國際語を考へ出した、そもそもの動機なんです。（氣が付いて）おや、話に身が入つて大分夜も更けたやうだ。貴君が訪ねて下さつたので嬉し紛れに詰らない話をして申しわけがありません。ではこれでお別れしませう。

**ステフアン**　有難う御座いました。わざわざお見送りをねがひまして。

**ザメンホフ**　どう致しまして。新らしい同志を得て、大變力强く感じます、どうか時々訪ねて下さい。

**ステファン**　ではお寢みなさい。

**ザメンホフ**　御機嫌よう。(二人、握手をして別れようとする)

その時、アダムやヘンリック、その他、ピルスツキー(波蘭社會黨領袖、國粹主義者)一派の靑年達が演說會を終へて歸つて來る。靑年一、小高い處へ立ち上つて喋り出す。一同、拍手する、ステファンとザメンホフ、その他通行人たちどまつてみる。

**靑年一**　親愛なるポーランド國民よ。今や、歐洲は未曾有の危機に直面してゐるのであります。此の時に當つて、我々、ポーランド人は、如何に身を處すべきか？　若しも我々にして一步を踏み誤まつたならば、それこそ悔ひを千載に殘さなければなりません。(拍手)諸君は瑞西のラツパースビルへ行つた事がありますか？——湖の畔に古めかしい城が立つてゐる。コシウシコ始め、ポーランド獨立運動の先驅者達の記念の品が並んでゐる博物館です。僕はかつての春此の古城を訪れ、低徊三度、離るゝ能はず、おもむろに湖畔に佇んでコシウシコの遺業を忍び、はた又、現實のポーランドを凝視して、獨り血淚に咽んんだのであります。併し乍ら諸君、あのラツパースビルの博物館を、此のワルシヤーワに移す日も遠くはない。それはロシア帝國の手を離れたポーランドが自由と獨立とに祝福される日であります。(拍手)(喚聲)しからば、その自由は如何にして與へられるか。——一九〇五年、ロシア政府は、國內に於ける革命の勃發に周章狼狽し、我々ポーランド人に對してその自由を保證と乍ら、革命の鎭定するや、その約束を弊履の如くふみにぢり、今や、その壓迫は昔日を凌ぐものがあるのであります。(同感の聲、起る)我々は斷じてロシアに賴るべからず。若し一度、露獨、戰端を開く曉には、我々はドイツに組して憎むべきロシアの勢力を驅逐し、以て國家百年の計を樹立せねばならないと思ふのであります。(拍手)

群集、口々に、

——さうだ、さうだ！

——ロシア人を叩き出せ！

——ポーランド萬歲！

わつと云ふ喚聲。ロシア人、一、二、なぐられて逃げる。先程から群集にまぢつてゐたルドルフ、おされて前へ出る。忽ち、人々に發見される。

——あツ、猶太人だ！

——そいつも放逐しろ！

——さうだ、ヘブライ人をやつゝけろ！

ルドルフ、打たれて逃げる。アダム、ザメンホフを見付ける。

**アダム**　(ザメンホフを指して)此處にもユダヤ人がゐるぞ！

——どいつだ？

——何處だ？

**ムダム**　此奴だ。此のおひぼれの家には、何時もロシア人が出入りしてゐるんだ。俺はちやんと知つてゐるんだ。

——やつゝけろ！

——叩き伏せろ！

——スパイをやつゝけろ！

**ステファン**　(ザメンホフをかばつて)待て！　此の人に、指一本ふれてみろ！　その儘では置かんぞ！

——何だと！

——そいつから片づけろ！

——のしちまへ！

**ステファン**　(激怒して)おい、アダム、貴樣は何といふ奴だ。こんなくだらないことが、貴樣達、愛國者の仕事だと云ふのか？

——生意氣を云ふなッ！

——ひつぱたけ！

——反動野郞の息の根を止めろッ！

**ヘンリツク**　(一步前へ出て)大義、親を滅すだ。やつゝけろう！

**アダム**　うム、ステファンをなぐれ！　ザメンホフをやつゝけろ！

一同、二人にとびかゝる。ステファン、身を挺してザメンホフを衛りながら格鬪する。

——急速に幕——

# 日本エスペラント大會實業分科會

## 第一回準備會　報告

8月22日午後1時より、日本エスペラント學會にて、出席者、16 名。横濱よりの出席者もあり。書面にて賛助される方あり。

座長に石堂氏を満場一致で推し、協議に入る。

1. 準備經過報告（磯崎）
2. 出席者自己紹介を兼ね實業エスペラント運動に就き感想を述ぶ。西村氏はゼツト萬年筆の見本取引がエスペラントで行はれた事を、鹽川氏及吉田氏は園藝球根類輸出の取引をエスペラントで數年來オランダとの間に續けてゐる經驗を報告。進藤氏がポルトガル領事にエスペラント文で通信された效果も語られた。
3. 趣意書草案審議、原案可決、字句を簡結にする事。
4. 分科會準備委員會を確立すること。今回の招待者出席者の外、地方をも含め適當なる同志を推せん可決。今日の出席者を常任世話役とする。
5. 分科會豫算の事。次回までに具體的事業計畫と共に豫算を作製のこと。收入は極力大會豫算から據出を願うが、なお必要額は當委員に於いて會費及有志寄附として據出を圖る。
6. 參加勸誘の方法。申込書附趣意書を R. O. に發表。なお別刷を作製配布の事。
7. 大會記念事業の件。

イ、實業エスペラント展覽會開催。大會展覽會の一部とし、エスペラント名商品、見本市ポスター、其他を内外より廣く集めること。同志商業美術家の作品展覽。

ロ、展覽會附帯事業として、商品即賣バザーを催すこと。エスペラント名商品の外、同志の營業の相互紹介の意味にて、各自營業品の持寄を勸誘の事。

ハ、外國同志との提携を緊密に圖る事。

ニ、一般實業界えの呼掛。次回までに考究。

ホ、大會大學の科目中實業問題を組入れること。

ヘ、エスペランチスト實業人名錄準備の件。

ト、萬博對策の件。分科會に上程する樣詳細準備委員會にて立案のこと。

チ、準備會報告 (Informilo) を作製配布の事。

リ、大會記念商品賣出の件。横濱エス會にて準備中の由。當準備委員會と協力實現の事。

8. 次回準備會9月中旬（ほゞ日1回の豫定)。常任世話係は頻繁に會合の事。
9. 東京實業エスペラントクラブ結成の件。此種恒常的團體の必要は異論なき所にて本日の試驗として、結成準備を進むること閉會午後4時頃。なお當日世界各國よりの國際見本市の參加勸誘書、宣傳ポスター等を廻覽。從來海外よりの此種呼掛に呼應し得ざりしを反省、今後、之等の機會を利用し實業界え働きかける可きを申合せた。

# 全國各地報道

投稿注意:
1. 日本文にて・四〇〇字詰原稿紙二枚以內。
2. 締切大體每月15日 (15 日以後到着のものものせらことあり)。
3. 地方會誌を以て報道に代ふるをえず。
4. 寫眞は裏に必ず何の寫眞かといふ說明記入の事。寫眞は返送せず資料として保存す。

**東京** **★エスペラント發表五十周年記念晩餐會**——日本エスペラント學會、東京エスペラント・クルーボ、第 25 回日本エスペラント大會組織委員會の主催の下に、7 月 26 日(月曜日)午後7時より、銀座二丁目明治製菓賣店階上に於いて、エスペラント發表五十周年記念晩餐會を開催した。

出席者——70 名。

司會——小坂狷二氏。

來賓挨拶——田中館愛橘氏、梅地愼三氏。

挨拶——淺田一氏、何盛三氏。石黑修氏。

當日の思ひ掛けない賓客、田中館博士は、滿場の拍手の裡に、半世紀に於けるエスペラントの逞しい發展をユーモラスリィに祝福し、吾々へ、最大の友誼を示された。

岩下順太郎氏の懇請に因る當夜の賓客、梅地教授が、成蹊エス會の生みの、且つ育ての親、エスペラントに對する同情者であることを吾々はよく知つてる。教授は、將來もなほ積極的な好意者であるであらうと挨拶された。 (K. S.)

**橫濱** **★學會橫濱支部**(木曜例會) 每木19時半より馬車道喜久屋フルーツパーラーにて輪讀と會話用書 Al Torento, YMCA-Esp.-Grupo. 例會——每火、金、19時→21時二階クラブ室にて會話練習に全力をあげてゐる。Amikino: 定期的會合を持たず新人2人得, 每火曜初講を持つ。以上。

**盛岡** **★盛岡エス會**——盛岡には例外的に嚴しい暑さが續きますが兎に角每水曜日夜の例會を續けて居ります。やつと初等文法講義も終りに近く、軈て讀み物に入る豫定です。17日は川德デパートで會話會、目下歸省中の大川氏を迎へて東京のお土產話に花が咲くことでせう。

**青森** **★青森エス會**——◇ 6月20日、これから働いて貰ひたかつた栗田氏東京へ發たれる全員で送別會於サロン。◇7月15日、月例會出席 15 名古顏連久振りで會合エス語五拾年を語る落着いた會を持つた。8 月15日、例會出席 16 名。F-ino 鈴木エス語を始めて僅か1ケ月忙しい仕事のうちの努力で成した Nian Sulkon の kuraĝiga paroladeto と La Vojo 獨唱。F-ino 秋元獨力で "Patro Revenas" まで漕ぎつけた眞面目さ。齋藤(清)氏、短講修了後一氣に "Vivo de Z" を仕上げた進步の跡など皆を stimuli.「日本語話す位なら默つてる會」の相談が持上がり每月5, 25の兩日晚7時半より驛前榮作堂喫茶店で開くことに決定。神氏の明快な旅行談又同氏創作の Dramo を F-ino 北川、橫岡氏、齋藤氏が演つて aplaŭdado...賞の入つた例會。◇青森市立高女校長柿﨑守忠先生「學校とエス語」の立場から進んで自ら先づエス語研究に着手された。◇國主公園十和田グラフにエス語 1 頁。(今泉書店發行 ¥ .35 四六倍判30頁立派な案內記) 發刊間際に廣告頁を割いて入れた校正なしのエス語は成功とは云えないが再版のときは吾等の手で少くも寫眞の說明だけでも全員にエス語を入れることを約してある。

**函館** **★函館エス會**——7 月12日午後零時50分高桑正吾氏外數名來着の小坂狷二氏を連絡航に迎へ、更に同夕午後時半より驛前カフエーコンゴーに於て歡迎會を催し、同氏を圍んで懷舊談や質疑應答に愉快なる 1 時間半を過ごし、11時10分北上する同氏を驛頭に見送つた。寫眞は同夕の歡迎會。



函館エス會

**名古屋** **★名古屋エス會**——◇ 6月14, 21, 28 日, 7月 5, 12, 19, 26, (月曜) 各19時30分より2時間宛中區鐵砲町白木氏方に於て輪讀會を催す、用書「東洋の俠血兒」を讀了し 6, 21日より城戶崎氏のザメンホフ讀本第1編、主として竹中氏指導、出席 4—5 名。◇ 6月17日19時半より白木氏方で第 1 回木曜日會開催、出席 4 名。◇7月8日 19 時半より白木氏方で 7 月の木曜會開催。◇

7 月18日正午頃フランスの同志アダム氏が山代の竹内藤吉氏に伴なわれて來名に付由比、西田兩氏わ名古屋驛に出迎え名古屋城見物に案内。併しア氏旅程の都合上歡迎會を開き得なかつた事わ殘念であつた。8 月15日(日)三重縣四日市の午起海岸にエクスクルソ、參加者竹中、山崎、澤田準善、内藤、澤田廣、金子、上島氏等の外京都より木村金松氏わボートを持つて參加、倘桑名、四日市兩エス會よりも多數參加され 20名餘りの賑かさで愉快な1日を過す。

**N. E. S. 豫告**——◇毎週月曜19時半より中區鐵砲町2丁目白木氏方で輪讀會、用書ザ讀本 I. ◇ 9月 9日(木)19時半より白木方に於て9月の木曜會、◇下旬より白木方で初講開催の豫定。

**★J. E. I. 名古屋支部**——◇支部代表者池田勝三郎氏わ海部郡津島町に移轉せられたるに付き支部宛の通信わ當分の間下記名、

名古屋市中區川名町市立八事療養所内矢崎富美人、又わ名古屋市中區南大津町松坂屋内竹中治助。

## 大阪

**★大阪エス會**——毎火曜日例會開催。Privat: "Historio de Lingvo esperanto" 研究。本月は東市民館の例會場が差支へあつて使用出來ず、"Trapezo" 喫茶店に變更。倘本月中及9月中の例會は "Trapezo" にて開催する豫定。——夏期短期エスペラント講習會は豫告通り8月2日より毎週、月、水、金、午後7時——9時、堂ビル3階洋裁學院教室にて開催。講師は進藤靜太郎外數氏。Kursanoj 30 名。内5名は fraŭlinoj。主として進藤氏得意の rekta metodo により、teksto は城戸崎氏: Esperanta gvidilo" を用ひてゐる。——8月17日東京より同志淺田一博士を迎へ大阪中央公會堂大洋軒食堂に於て午後 6 時半より bonvena kunveno を兼ね、Komuna vespermanĝo を開く。同博士の外、中ノ目氏、月本氏、其他の名士の列席をみ、炎暑に拘はらず盛會であつた。La espero を合唱して散會。

**★O. E. S 豫告**——毎週火曜日例會開催、Privat "Historio de L. esperanto" 研究。但第3火曜日は會話練習會。東京市民館の例會場は改築の爲用使出來ず、8,9月中の例會は平野町 "Trapezo" 喫茶店にて午後7時より行ふ。——O. E. S 總會は Komuna vespermanĝo 豫告。9 月28日(火曜日)午後6時半より、大阪中之島中央公會堂地下室大洋軒食堂に於て Komuna vespermaĝo を兼ね、O E S總會を開催する豫定。會費 10 錢。數氏の講演。Kantado の練習等をなす豫定。

## 和歌山

**★國際協會和歌山支部エス講習**——8月4日より13日迄10日間。毎朝 9 時より11時迄 2 時間宛。講師奥村林藏、田津野健藏、前田米美。教材: 學會エス誌、エス・レコード La Suno 誌會話、其他自由教材にて中等講習。出席名、山崎金次郎堀本正、吉田信隆、松下正行、山田學、高木彌、熊谷彌太郎、花光みどり、岸濱子、千田利子、小笠原譽至夫。殆んど全部皆出席の熱心さ。12 日記念撮影、13 日茶話會。今後毎週一晩會合して勉强することになる。これで國際的平和運動の有力誌 La Suno の基礎が



大阪エス會展覧會

4 年目に完成したわけである。La Suno の次號が待たれる。

**大牟田** ★學會大牟田支部——學會大牟田支部に於ては去る 7月14日20時よりエスペラント發表 50 年記念祝賀會及び大牟田エスペラント會創立 10 年記念祝賀會を植田會長宅大廣間に於て行ふ、生憎の雨天にも拘らず會するもの 20 數名、例により熱心なる同志水野氏は山門郡より馳せ參加された、定刻、荒木幹事開會の辭を述べ大牟田エスペラント會創立 10 週年に當り東大教授西成甫博士にエス文の揮毫を御願し本日茲に記念として植田會長へ贈呈するに至りたる經過につき述べ、西原幹事は世界各地に於て、エスペラント發表 50 年記念祝賀會の何れかの形で行はれつつある今日、今夜當エス會にても創立十週年祝賀を兼ね、エスペラント發表50年祝賀會を擧行出來たる事のヨロコビ、偉大なる Majstro Zamenhof 博士の德を頌し、當エス會々長植田氏の Zamenhof 博士生き寫しである德を稱へ、植田會長へ西博士揮毫のエス文の扁額を記念品として贈呈の辭を述べれば、次に植田會長は當エス會のかくも盛大になりたるは會長の力のみに非ずして會員協力の贈物である今後の奮勵を望み、記念品に對する謝辭を述べらる、鹽山副會長、荒木幹事の懐舊談に花が咲き、當會唯一の支持者である塚本老は立ちて激勵の辭を贈らる白濱氏高等小學校時代每日學校の前を英語の本を讀んで通勤者らしき Junulo の通るに氣付きゐたる事それは今の中川氏で、讀める本はエスペラントなる事を知りエスペラントを初めたる事、同氏の皮切りによる Kanto にて餘興に入り、炭礦節に礒節に興の盡きる所なく、植田會長令孃の手になる Regalaĵo に舌鼓を打ち時の盡くるを知らず名殘を惜しみつつ 23 時散會。(西原)



帶廣エス會

## ANONCETO

**★淺草エス會**——變更致しました。本會宛の御通信は今後下記宛に御願ひ致します。

(東京市下谷區北稻荷町 25 石黑捷三郎方)

## 個人消息

**★原田三馬氏**。在京中微恙を得、歸省御靜養中の同氏も最近目出度御全快、再び北海道銀行帶廣支店に御勤務なさる事になつた。御住所は、北海道帶廣市、北海道銀行帶廣支店內。

**★金子美雄氏**(名古屋)去る 7 月15日華燭の盛典を擧げられました、御新居わ名古屋市南區北原町 1 丁目 73.

**★內藤爲一氏** (名古屋) 8月 7 日御長男出生、そして vivu kaj kresku nur laŭ l'amo de l'Natur' との意味から夏郎(ナツロウ)と命名された。

## 新聞雜誌とエス

★專修大學經濟新聞 (8月1日) 商業と世界語、人工語エスペラント五十年祭に因みて——伊井迂老人。

★東京日々。(8月9日)「日本文化聯盟」の事業大綱。その項目の中の(4)邦語及び英、獨、佛、エス語で日本文化大觀と付圖編纂。

★慈光。(7月5日) 月刊「聖句」のエス譯。

★音樂新聞 (190號、7月中旬號) エスペラント學會歌曲募集について。

★科學ペン (8 月號) 小坂狷二「科學用語としてのエスペラント」

★學藝新聞 (3月20日 9月1日)「世界教育會議と用語の問題」伊井迂。

★Third America Japan Student Conference. 英文報告書、文化部の國際語問題の討議、川本、木村兩氏の國際語に關する論文二個。

## 地方會機關誌その他

★La Fervojisto (東京) N-ro 69.——國際語の創始者竝に理論家としてのザメンホフ•エ•ドレーゼン—— Ĉielo Blua. 橋本壽治編——Terminaro de Fervojaj Veturiloj. K. Nemoto

★肺結核患者ニ於ケル胃液細胞成分ニ就イテ、矢崎富美人。

★La Ora Delfeno. Nagoja Esperanto-Societo.

★Netipa Ĥorioepiteliomo Maligna de Negativa Hormonreakcio. D-ro Zinkichi Shinoda K. D-ro Hideo Shinoda.

★Pri la Haŭtmuskolo de Trapezius-grupo. (M. trapezius subcutaneus) ĉe Mamuloj. Ura-Ryozi.

★VERDA OMBRO. Nagasaki Medicina Fakultato.

# 世界教育者會議とエスペラント

外國から一千人、國內から二千人の參加者を得て8月2日—7日に亘つて東京で開催された第七回世界教育會議 (The Seventh World Conference of the World Federation of Education Associations) には前から色々な働きかけがなされた。前の岡本書記長が大會事務局を訪問されたり、東京附近の教育者エスペランチストが學會に集つてこの對策を講じたりした。小坂理事が中心になつて、協議し磯崎氏が實際のかけ廻りをやつてくれた。

## ビラの配布

會議が近づいて、會議參加者に配布する四六倍版4頁の印刷物がつくられた。「教育上より見たる國際語問題」"Intetnational Language Problem in Education" である。日本文は磯崎氏が作製し、英文の方は久保評議員の原文を、佐々城佑氏、藤澤親雄氏が校閲したものである。

この內容の豐富なビラは、會議の各部會の入口で參加者に配布された。更に8月3日—4日と、磯崎氏、賀川氏は、配布洩を防ぐために、會場である大學講內で、ドシドシと手渡した。尙、教育展覽會を大々的に開催してをる東京女高師の入口でも磯崎氏の手で入場者に配つた。

## モンロー博士の演說

注目に値することは、會長のポール、モンロー博士が2日のハーマン、ジョルダン委員會(この部會は平和教育の問題を研究する)での演說で、國際會議に於ける國際補助語の必要を力說したことである。この時には藤澤親雄氏を初め一般の列席者から拍手が起つた。

## シエラーの紹介

アメリカのエスペラント會長といつたのでは餘りピンと來ないけれど、數年前エスペラント世界旅行を、ヘロルドの特派員としてなしとげて日本の同志の間に親しまれた、シエラー氏から七月末、學會內の同志宛に一人のアメリカ婦人が紹介されて來た。この婦人はエスペラント語が全く出來ないけれど、出發前にシエラーを自分の學校(ニューヨーク近くの公立小學校。彼女氏はそこの校長先生)に招いて、日本に關する講演を生徒に聞かせたので、エスペラントに關しては非常に厚意をもつてゐた。假令エスペランチストでなくてもエスペランチストの紹介に對して接待をすることは、その人をエスペラントに近づける道である。7月30日船が橫濱についた時橫濱の新川氏は船まで出迎へたがとうとう會へなかつた。その後山王ホテルに滯在してゐることが分つたので、三宅氏、久保氏、石戸氏三人が3日夜訪れる。11時すぎ歸つて來た。Miss Grace E. Koerner に三宅氏がシエラーの手紙を見せて話しかけると非常に嬉んで、彼女氏も亦我々をさがしてゐたらしい。パーラーで一時間以上も話をする。日本側三人はお互に話す時にエスペラントでやり實演を示す。彼女は平和主義者で從つて、エスペラントの意義を充分認めてゐた。翌日三人は又 Koerner 先生に大學で會ふ。彼女はこの三人の日本人を他に紹介する時には必らず、この人々がエスペランチストであるといふことをつけ加へた。それから後市內見物につれて行く。別れる時、シエラー氏に日本のエスペランチストの手厚い接待を傳へずにをかないと繰返してゐた。

## 外國人のエスペラント觀

會議に參加した久保評議員を通じて、外國からの參加者のエスペラントに關する意見をたゞいてみる。Dr. 某、アメリカの教授。國際語はアメリカではその必要を感しない。Miss Hall といふお婆さん。「あなたは英語を話すではないか。フイリツピン人も。インド人も。皆英語をよく話す。この現狀で充分だ。それ以上エスペラント語といふものを學ぶことは精力の消費になる。」といふ目茶苦茶な返辭。エスペラントに關する英文ビラを渡して「之を讀んでくれ!」。ドイツ人を捕へて「あなたはエスペラントを話すか?」と質ねたところ Ah Esperanto! 私はその名を餘程前から知つてゐる。しかし、自分は學んだことがない。」と。ポーランドから數名來朝した代表を發見しようと試みたが會場では全く數百人の中から一人二人を捜し出すことは不可能に近かつた。

## 世界教育者會議で拾つた言語問題の斷片

★8月2日後樂園で東京市主催の歡迎 teo kunveno がある。こゝで出會つた日本の小

學校の先生。「我々は言葉がだめだから、話しをしようと思つてもそれが出來ない。だから一寸も面白くない。」

★第二總會は4日の午後8時から開かれた。こゝでドイツの文部事務官シュルツ氏のドイツ語演說。日本の代表でも上體を乘り出して耳をかたむけて熱心に理解しようと企てゝゐる人々がゐる。しかし外國語のしかも演說の聽取といふものが、たゞ熱心さだけで、容易くできるものでない。その人々もやがてはグッタリして後へ體をもたれかけて了ふ。その時驚いたことに、すぐ隣りで大きな鼾が聞える。ドイツ語の講演に見極めをつけた一日本教育者が連日の疲れを休めてゐる姿。

★ハーマン・ジョルダン委員會。この部會は2回に亘つて行はれたが、各200-250名の參加者があり日本人も1/3位は占めてゐたが、最初から後りまで、日本語が一度も語られなかつた。

★7日の教員會の部會では通譯がついてゐて非常に要領よく說明してくれてゐたが、何しろ議長がアメリカ人なので段々通譯を省略はじめた。裏にゐた5-6人の日本小學校の先生方とおぼしき婦人達、ボソボソ不平を云ひ出す。とその前にゐた日本の青年立ちあがつて「議長、どんな少しの質問でも討議でも悉く日本語に通譯して欲しい」と强硬に要求する。日本側から賛成の聲起る。

★總會の中途で歸途につくと、バスにの中で一人の日本代表に質ねられた。「あなたは會議の言葉が分りますか。我々小學校教員は全然分らない。全く分らない。これでは縣の代表として來て、報告が出來ない。もつと通譯をどしどしつけて貰ひたい。自分は建議書を事務局に提出する積りだ。自分と一緒に來た二十餘人の同縣代表も皆こぼしてゐる。何とかならないものか」この人は中國地方のある縣の小學校長さんだつた。

★上のバスの中の話を傍で聞いてゐたこれ又代表が、曰く。「さつきの話は尤だ。自分は毎日英語を教へて飯を食つてゐる人間です。それでやつとだ。まして小學校や中學の普通の教員が分りつこない。日本の教員代表は大部分、いや全部といつてよい位、通譯なしには分つてゐない。大學を出た中學の校長先生が、今日私にテンデ分らんと不平を云つてゐた。自分も、今晩のやうなドイツ語の演說だとまるでかなわない。」　(S. K.)

---

◎8月2日午後4時帝國教育會長及東京帝大總長招待の帝大懷德館に於ける園遊會に於て小坂氏「國際語問題」を携行三四の人に宣傳した。

◎8月4日午後4時東京鐵道局大宮工場見學(外人約210, 日本人約60)に對し鐵道工作局は英文及エスペラント文寫眞入り8頁の說明書を作製配布し、特に國際語エスペラントで書かれてゐることを注意した上案內した。なほ休憩所に置いてあつた「教育上より見たる國際語問題」は全部參加者が持つて行つた。

---

### オリエンタ・クラチーオ

七條晃生氏著「心療讀本」のそへがき(五)に次のやうなことが書いてある。

「平田氏が心療を『プシコライツテラピー』とドイツ語で書かれたことがあゐが、心療は東洋醫術(オリエンタ・クラチーオ)であるからドイツ語や英語であらはす必要はなく、外國人に對して敎へるときにはエスペラント語で『セントンエクスチーティテラピーオ』といふのが一番妥當であると思ふ。我々の仲間は東洋精神の顯彰と東洋醫術の確立のためにドイツ語や英語に追隨することをやめて『日本人には日本語で、外國人にはエスペラントで』といふ風に强く出たいものである」。

---

### 日本エス大會組織委員會幹事會
### 八月會

從來數回に亘り協議を重ねて來た、今秋の日本大會も、だんだん間近に逼つて來たので、學會內に中心を置く幹事會は、八月例年にない暑熱にも係らず相談會を開いた。

8月16日(月)午後7.00—9.00.

會するもの小坂幹事長以下幹事15人。

協議の內容は前回幹事會決定の諸事項を再檢討し、又分科會には新しく「實業」を加へることになつた。

---

### 御注意

„全國各地報道“ へ御投稿の場合は本欄劈頭に揭げたる „投稿注意“ を御一讀の上爲され度し。　(編輯部)

エスペラント

# 講習會

| | |
|---|---|
| 初等科 | ABC の讀み方からはじめ文法一般の知識を與へ，簡單な讀み物の譯讀，日常の會話，作文等におよぶ |
| 聽講資格 | 男女を問はず，ロオマ字を解するもの |
| 期　間 | 九月二十日から十一月十八日まで |
| 日　時 | 毎週**月**，**木**曜日午後7時から9時まで |
| 講　師 | 江上不二夫氏 |
| 教　材 | エスペラント短期講習書（定價 20 錢） |
| 會　費 | 全期分**三圓**前納のこと<br>本學會會員または「エスペラント」の讀者の紹介によるものは會費を**二圓五十錢**に割引く |
| 申　込 | 開講前日までに申込みのこと。ただし會費は開講當日持參のこと。 |
| 會　場 | 財團法人 日本エスペラント學會事務所<br>本郷區元町一丁目一三<br>〔省電〕お茶水・水道橋<br>〔市電〕本郷元町下車<br>文化アパートの横入る |

…………………………（切　取　線）…………………………

## 初等講習會參加申込書

N-ro ____________

氏名 ____________

____________

____________

____________

（紹介者：　　　　　　氏）

會費
教材

學會會員諸氏よ，この機會に，なるべく多數の友人，知已をお誘ひください。

# エスペラント圓本時代來る！？

## 四六判二百ペイヂ僅か１圓

## 劃紀的出版 'EPOKO' Libro-Klubo 會員募集

### 前金不要

良い書物をやすく提供するのが目的のこの會へ入會するには，申込金は勿論，豫約前納金など，すこしもいりません。住所姓名を書いてお申込みになれば，それでよいのです。會員には，二ケ月毎に一册，二圓の書物を一圓で提供します。

### 規　　定

1. 會員になるには，住所氏名(ロオマ字，漢字兩樣)をはつきり書いて申込めばよい。
2. 會員には２ケ月に１冊づつ出版される書物を特價で頒つ。
3. 特價は，１冊につき１圓，會員外は定價２圓。
4. 會員は，すくなくも，ひきつづき３冊を買ふ義務がある。
5. 退會は，１ヶ月以前に通告しなければならない。

**• 第一回配本は十一月の豫定 •**

### 第一次出版豫定書

Agatha Christie: MURDO EN ORIENTA EKSPRESO

このなだかい女流作家の戰慄の傑作をまだお讀みにならない方は，ぜひ，このエスペラント譯で!!

P. G. Wodehouse: LA PRINCO KAJ BETTY

ウッドハウスのユウモアにとびつかぬ人がモダン世界にありませうか？

H. G. Wells: LA TEMPO-MAŜINO

ウェルスの未來記は決して荒唐無稽の空想小說ではない。これは，人類文化の歷史を究めた科學者の正確な計算の上に立つ豫言書である。

### 申　込　所

東京市本鄉元町　財團法人日本エスペラント學會　振替東京 11325 番

## 新着洋書

### LA NAIVECO DE PASTRO BROWN

de G. K. Chesterton
四六判 256 ペイヂ，上製
定價 3 圓30錢，送料10錢

〔Popolara Esperanto-Biblioteko 第 14 篇〕稀代の怪盜に導かれて無人の草原に來たときブラウン師はどうして世界一の名探偵を，そこへおびきよせてゐたか。警視總監邸における奇々怪々な殺人，ブラウン師は氣が狂つたのか—— こんな意外な犯人がまたとあらうか。スリルとユーモアにとんだ短篇探偵小說 12 篇。

## 再着書

### PLENA VORTARO

定價 6 圓
送料 12 錢

輸入しても輸入しても忽ち賣切れる。またも賣切れぬうちすぐ。Plena Vortaro を持たなければ恥辱です。

### EDINBURGH ESPERANTO POCKET DICTIONARY

定價 2 圓 50 錢，送料 6 錢

エス英，英エスを一册にまとめた，もつとも手頃な，しかも內容が新しく，語數豐富な，信用できる辭書としてながい本書も，長らく品切れで御迷惑をかけてゐましたが，今回やつと少部數入荷しました。

### Privat: KARLO

定價 60 錢
送料 3 錢

今回は多數入荷。中等講習に御利用ください。

### Waad: ESPERANTA LITERATURO

1 圓 50 錢
送料 3 錢

エスペラント文學の理論，原作者紹介，名著梗概等，エスペラント文學の一般をつかむにもつとも便利な著書。試驗問題集つき。

### ESPERANTO POR INFANOJ

定價 1 圓 35 錢
送料 3 錢

### NOVA TESTAMENTO

50錢，布裝1圓，1.50 圓，送料3錢
革裝2.20 圓，4.50 圓，送料13錢

財團法人 日本エスペラント學會　東京本郷元町一　振替東京 11325





## 南方飛行便

激しい訓練と重い責任——義務のまへにはあらゆるものを犠牲にしなければならないのが飛行士のモラアロである。これは航空文學の傑作を映畫化した，空のパイロオトの嵐と銃火をくぐる悲戀の物語である。




昭和十二年八月二十日印刷納本
昭和十二年九月一日發行（每月一回一日發行）
ラ・レヴオ・オリエンタ（エスペラント硏究）第十八年第九號

定價廿錢（送料二錢）

編輯印刷兼發行人 財團法人 日本エスペラント學會 右代表 大井學